関西大学ピア・コミュニティ
2019 年度報告書

関西大学

2019年度活動報告書も発刊にあたって

関西大学学生センター所長
岡本　哲和

本学のプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の活動は、2019年度で12年目を迎えることとなりました。振り返れば「平成」から「令和」に年号が一新されるが如く、「チャレンジ」として新しいことへの取り組みが積極的に行われた1年でした。

中でも、6年間活動停止状態にあった「ピア・スポーツコミュニティ」の活動を再開できたことは大きな出来事でした。“スポーツ”を1つの核にして、本学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進する目的を再確認し、より一層の「絆」を深めることで学生としての帰属意識や母校愛が高まることを期待しています。

本年度末には、日本学生支援機構からの依頼を受けて行われた「学生支援の取組状況に関する実地調査」で、本学の長期ビジョン「Kandai Vision 150」における学生支援の政策目標の一つ「課外活動による豊かな人格形成と地域社会との信頼構築」に関し、ピア・コミュニティの活動を大きく評価していただきました。このことは、学生ピア・サポータをはじめ、教職員スタッフともども、大きな励みとなりました。

本学教育部門のテーマの1つとして、「変化を続ける社会に、関西大学はいかなる人材を送り出すべきか」があります。この問いに対しては、ピア・コミュニティ活動を通じた新しい取り組みによって生まれるチャレンジ精神の醸成や失敗の経験による学生の成長が答えともなっています。ピア・コミュニティ活動は、より豊かな人間性の形成の一因に大きな関わりを持つと確信しております。

本年度はチャレンジ精神に溢れる多くの事業を計画しましたが、年度の終盤には新型コロナウィルス感染症の影響を受けて、イベントの中止を余儀なくされました。次年度に向けて、厳しいスタートの予感を感じざるを得ませんが、学生の力を信じつつ、各方面からより一層のプログラム発展に対するご理解とご協力を賜り、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

（政策創造学部　教授）

目　次

1　ピア・サポータの育成

1.1　ピア・サポータの育成 …… 1

1.2　シニア・サポータの活動 …… 3

1.3　関西大学ピア・サポート研修 …… 5

1.4　スキルアップ講座 …… 8

1.5　効果測定 …… 15

2　ピア・コミュニティの活動報告

2.1　ピア・コミュニティ活動のあゆみ …… 21

2.2　ピア・コミュニティの活動 …… 23

2.2.1　ピア・コミュニティ運営本部 …… 23

2.2.2　国際コミュニティ“ＫＵブリッジ” …… 34

2.2.3　ピア・スポーツコミュニティ（ＰＳＣ） …… 44

2.2.4　ＫＵサポートプランナー（ＫＵＳＰ） …… 47

2.2.5　ＫＵコアラ …… 50

2.2.6　ＫＵサポーターズ …… 55

2.2.7　ぴあかんず …… 56

2.2.8　関西大学ＩＴピア・コミュニティ“i.com” …… 58

2.2.9　関西大学学生ＰＲチーム　ＳＵＧａＯ …… 59

2.3　ピア・サポータからのメッセージ …… 65

2.4　支援部署職員からのメッセージ …… 71

3　学生支援室の活動報告

3.1　学生支援室の役割と主な活動 …… 73

3.2　学生支援室ＴＡとの座談会 …… 74

巻末　　参考資料

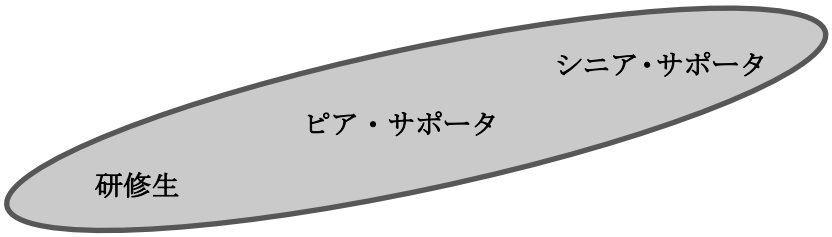
1　ピア・サポータの育成

1.1　ピア・サポータの育成

2015 年度に終了した正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」に替わって、ピア・サポータ養成を行うための研修と日常の活動でこれまでの質を維持できるようにしている。例年 100 名前後の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践を行ってきたが、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくために、これまでの学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員（支援部署を含む。）、ＴＡを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとなる、シニア・サポータを設けている。

ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポータ、シニア・サポータの認定条件は次のとおりである。

【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポータ	シニア・サポータ
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポータの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポータの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポータの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動、および学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。

【ピア・サポータおよびシニア・サポータ認定条件】

ピア・サポータ認定条件

・ピア・サポータの認定条件は、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了とする。

シニア・サポータ認定条件

・シニア・サポータの認定条件は、ピア・サポータとしての 1 年以上の活動と、スキルアップ講座 5 つ以上の受講修了とする。

特例措置：各コミュニティの代表・副代表、およびその経験者について、「ピア・サポータとしての活動歴（1 年以上）と、スキルアップ講座 3 つ以上の受講修了」をもって、シニア・サポータとして認定する。

本年度の認定条件に関わる状況を以下の通り、過去 5 年間の平均値と対比した。いずれの数値も過去 5 年間の値からは改善が示されたものの、事務局からの積極的な声掛けなどによる受講参加者が多く存在することも否めず、参加者の自主性においては課題が残る結果となった。

スキルアップ講座 1 講座当たりの参加人数

2014 年度～2018 年度の平均値	2019 年度
5.5 人	7.7 人

シニア・サポータの登録人数

2014 年度～2018 年度の平均値	2019 年度
5 人	11 人

シニア・サポータの登録人数に対する占有率（シニア・サポータ数／ピア・サポータ数）

2014 年度～2018 年度の平均値	2019 年度
6.5%	20.8%

その主な要因としては、シニア・サポータとして認定され活動を行う時期が就職活動の時期と重複することで、その役割に対する重責感を懸念する傾向が考えられる。また今年度いずれの研修も受講しなかった者に対し、ヒアリング調査を行った結果、その理由として「授業があったため参加できなかった」「必要性を感じなかった」と回答した者が多く、あえて認定制度に自らを合わせなくても、コミュニティ内の活動だけで自身の目的が達成できると判断する者も多く見られた。

それぞれのコミュニティ活動で必要とされているスキルは画一的なものでないため、今後は、活動を通じた自身のスキルアップのために自主的に参加できる研修の仕組みを検討する必要があると考えている。

1.2　シニア・サポータの活動

2014 年度新設した「シニア・サポータ」について、2019 年度は、新たに 3 年次 5 名、4 年次 1 名の登録があり、過年度登録の 4 年次 5 名と合わせて、合計 11 名で活動を行った。

就職活動が落ち着き始めた 9 月頃から、4 年次生を中心にシニア・サポータミーティングを重ね、2 月には「他大学交流会　Peer-kan’s」を開催した。今回は昨年に引き続き 2 回目の交流会となり、8 大学（北星学園大学、神奈川工科大学、白鴎大学、四天王寺大学、京都産業大学、京都女子大学、神戸大学、長崎大学）約 50 名のピア・サポート活動を行っている学生と教職員スタッフの参加があり、本学のピア・サポータと交流を行った。

また 3 月 17 日には「2020 年度スタートアップ ミーティング」と称し、2019 年度の活動を振り返り、次年度への活動につなげる企画を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で実施することが出来なかった。そのため、シニア・サポータを中心に各コミュニティが準備していた内容を集約し、全員に配信する形で本年度の活動報告を行った。

以下に、今年度のシニア・サポータの活動を示す。

◆企 画 名　2019 年度他大学交流会「Peer-Kan’s」

日　　程　2020 年 2 月 21 日（金）

場　　所　総合学生会館　凜風館 4 階　ミーティングルーム

参加者数　71 名（シニア・サポータ 8 名、ピア・サポータ 16 名、研修生 2 名、教職員 5 名、他大学学生・教職員 40 名）

目　　的

・様々な大学のピア・サポート活動の内容を知り、同時にピア・サポータと交流することで、新たな気づきや発見を得、自らの活動の在り方を再考し、今後のより良いピア・サポート活動につなげる。
・他大学のピア・サポータと交流することで、サポーターが抱える共通の課題を発見するとともに、その課題の解決を目指す。
・様々な大学のピア・サポータとの交流を通して、大学の枠を超えたつながりを形成する。

内　　容

11:00　キャンパスツアー（希望者のみ）
12:00　各自昼食
　※開会までの間、仕掛けを用意し、参加者同士のアイスブレイクを図る
13:00　第 1 部　オープニング（交流会の趣旨説明）
　　アイスブレイク（参加大学の活動を知る）
14:00　第 2 部　ワークショップ「ピアトーーク！」
15:00　休憩（第 3 部に向けた準備）
15:15　第 3 部　ワークショップ「キーワード Peering」
　　（別途、教職員プログラムあり）
16:30　エンディング
　※その後 17:30 から凜風館 2 階食堂にて懇親会

効　　果

・日本全国のピア・サポータの活動内容を知ることができると同時に、関西大学のピア・サポート活動について広報することができた。
・交流会全体を通して、「ぴあのわ」では得られなかったつながりがさらに得られた。

改 善 点

・第 3 部ワークショップにおいて、進め方の STEP の流れが難しいとの声があがった。企画の流れを熟知しているシニア・サポータがいた班ではそのような声はあがらなかったため、本学の学生に事前に企画内容を説明し、ファシリテーターとなってもらうことで企画が円滑に進むだろう。
・「交流会」ではなく「研修会」として開催することで、より多くの大学からの参加が見込めると参加者より提案があった。他大学交流・研修会として開催することを次年度以降検討したい。

感　　想

・他大学交流会「Peer-Kan's」を開催したことで非常に多くの大学のピア・サポータと交流することができた。本学の参加者も各々積極的に様々な大学と交流しており、良い刺激を得られた。
・職員のプログラムがとても良かったという回答が多く、次回も開催したい。
・アンケートにおいて、他大学交流会に肯定的な意見が多く寄せられたため、今後も本学での他大学交流会を開催したい。

年間を通じて「シニア・サポータ認証式及び活動報告会（9 月実施）」の実施が、大きな転機になったと考えられる。その表れとして、イベント後は毎週水曜日の定例で会議を実施するなど、シニア・サポータの活動が活発化し始めた。またコミュニティ全体を考える役割意識が芽生え、コミュ二ティ全体での交流が可能となることを目的とした「他大学交流会（2 月実施）」「2020 年度スタートアップ ミーティング（3 月実施予定）」を計画し、実施に繋げたことは大きな成果であると言える。特に 2 月に開催した「他大学交流会　Peer-kan' s」は、シニア・サポータを中心に昨年度から行われている企画であるが、昨年度を大きく上回る参加者が集うこととなり、様々な大学のピア・サポータと交流ができたことは、大きな自信につながったと考えている。

また新型コロナウイルスの影響で実施することが出来なかった「2020 年度スタートアップ ミーティング（3 月 17 日実施予定であった）」に関しても、単にイベント中止をすることだけに留まらず、この現状で何ができるのかを再考し、アクションを起こしたことは、まさに「考動力」の実践であり、最後にシニア・サポータたちの成長した姿を確信することができた。

1.3　関西大学ピア・サポート研修

1　実施目的　　ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする。

2　対　　象　　ピア・コミュニティ研修生

3　実施日時・実施場所・受講者数

	内容	実施日時	実施場所	受講者数
①	ピア・サポートって何だろう？	4月24日（水）16：20～17：50	第2学舎2号館 C302教室	10名
		6月21日（金）16：20～17：50	第4学舎3号館 3202教室	10名
		9月 12日（木） 9：00～10：30	第2学舎2号館 C204教室	5名
		12月5日（木）16：20～17：50	誠之館2号館1階 学生支援室	9名
②	自己理解	6月25日（火）16：20～17：50	第4学舎4号館 4002教室	16名
		9月 12日（木）10：40～12：10	第2学舎2号館 C204教室	3名
		12月12日（木）14：40～16：10	誠之館2号館1階 学生支援室	3名
③	コミュニケーション	6月26日（水）16：20～17：50	第2学舎2号館 C302教室	17名
		9月 12日（木）13：00～14：30	第2学舎2号館 C204教室	4名
		12月12日（木）16：20～17：50	誠之館2号館1階 学生支援室	6名
④	プランニング	6月27日（木）16：20～17：50	第4学舎4号館 4002教室	23名
		9月 12日（木）14：40～16：10	第2学舎2号館 C204教室	3名
		12月9日（木）14：40～16：10	誠之館2号館1階 学生支援室	6名

※①～④それぞれについて、いずれかの日程で受講。

※①～④すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。

※4月24日「ピア・サポートって何だろう？」は、支援部署職員・学生支援室TA、12月のピア・サポート研修は、学生支援室TA（新規採用者）を受講者数に含む。

4　概　　要　　本研修は、学生支援室 TA4 名（佐藤、竹本、宮原、安岡）とともに考案・実施したものである。

①については、一般学生が現在のピア・コミュニティ及びその活動について身近なものでないため、ピア・サポート活動の概要について知ってもらう機会として一般学生も受講対象とし、内容についても、ピア・サポータからのコミュニティ紹介の時間を設けるなどの工夫を行っている。

②③④については、これまでの研修実績より理解しやすく、効果的にサポータとしての自覚・スキルを涵養するための内容に心がけている。

	内容	所要時間	実施担当
①	ピア・サポートって何だろう？	90 分	4 月 24 日：山本 6 月 21 日：中井 9 月 12 日：中井 12 月 5 日：中井
②	自己理解		6 月 25 日：竹本 9 月 12 日：佐藤 12 月 12 日：竹本
③	コミュニケーション		6 月 26 日：佐藤 9 月 12 日：佐藤 12 月 12 日：佐藤
④	プランニング		6 月 27 日：佐藤 9 月 12 日：佐藤 12 月 9 日：宮原

①では、まず各自の身近な「サポート」に関わる経験を振り返り、サポートをしたりされたりすることのあたたかさや、サポートをすることで自分も何らかの影響や刺激を受けていること等を認識してもらった。続いて、ピア･サポータとしての必要な知識でありスキルをつけるための素養として、ピア・サポートの歴史や、ピア・サポートとは何かということ、関西大学にピア・サポートを導入した背景や、関西大学におけるこれまでの取り組み、またピア・サポート活動での注意点などを説明した。その後、ピア・サポータたちから、各コミュニティの理念や活動内容等について紹介してもらった。

②では、他者を支援する活動の基盤となる自己理解そして他者理解について、ユング心理学に基づく「8 つの性格別タイプ分析」を取りあげ、習慣化された自己の言動について認識してもらうとともに、多様な性格パターンの存在を知り、人間の多様性を理解する機会とした。

③では、各々の日頃のコミュニケーションを振り返るとともに、ピア・サポート活動を行う際に必要となる、話し手の気持ちを汲み取る「傾聴」

と、聞き手が理解しやすいように「自分の意見を明確に伝える力（アサーション）」を身につけられるよう、ワーク中心で学んだ。

④では、プランニングの概要を説明するとともに、どういった目的で誰を対象に何をするのかといった立案や、具体的に何をいつまでに実行するのかといったスケジューリングについて、チェックリスト等でおさえるべきポイントを確認しつつ、グループワークで体験した。

5　所　　感

昨年度の課題は、学生支援室 TA 歴が長い 1 名が実施を担っていた点を改善し、複数名で実施できるようにすることであった。しかし年度途中に学生支援室 TA の要員自体を増やすことができなかったため、大きな改善には至らなかったと言える。ただ例年多くの受講者が見込まれる「プランニング」に関しては、より実務的な内容が多く含まれることもあり、学生支援室 TA のメンバー間で情報共有を行い、現活動に即した内容へ修正を行ったため、複数の学生支援室 TA が研修可能な体制ができた。

本年度は 51 名の研修生のうち 18 名がピア・サポータの認定を受けており、割合的に見れば、本年度登録を行った研修生のおよそ 35%程度にとどまっている。研修生であってもコミュニティ内で活動を継続することが可能になっていることも要因の一つであるが、現状すべての研修日の設定については、事務局が学生支援室 TA の日程調整行い、各研修対象者へ周知する仕組みをとっている。受講対象者は 1・2 年次生が多く、授業と重なることもあり必ずしも受講しやすい環境とは言い切れない。「ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうこと」を実施目的とするのであれば、研修生の全員がピア・サポータに認定をされる仕組みを検討しなければならず、次年度への課題としたい。

1.4　スキルアップ講座

1　実施目的　　ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、ピア・サポータとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人材を育成することを目的とする。

2　対　　象　　ピア・サポータ、研修生

3　テーマ・実施日時・講師・受講者数

	テーマ	実施日時	講師	受講者数
①	ピア・コミュニティをマネジメントする	5月30日（木） 18：00～19：30	日本ピア・サポート学会認定ピア・サポートトレーナー 松田　優一	8名
②	フェイルファスト（fail fast）～失敗を恐れず、チャレンジすること～	6月14日（金） 18：00～19：30	総合情報学部　特任教授 関西大学学生PRチームSUGaOアドバイザー 越前屋　俵太	21名
③	関西大学を知る	6月20日（木） 18：10～19：10	株式会社関大パンセ代表取締役社長 元学校法人関西大学法人本部長 五藤　勝三	8名
④	自分の中にある常識をぶっ壊せ！ ～リフレーミングという手法～	6月28日（金） 18：00～19：30	総合情報学部　特任教授 関西大学学生PRチームSUGaOアドバイザー 越前屋　俵太	14名
⑤	傾聴トレーニング	11月13日（水） 16：20～17：50	学生相談室相談員 植並　鈴枝	14名
⑥	ほめる達人講座	12月4日（水）、10日（火）、17日（火） 16：20～17：50	一般社団法人　日本ほめる達人協会理事長 西村　貴好	4日:49名 10日:60名 17日:60名
⑦	思いやりを形にする	3月12日（木） 10：40～12：10	教育推進部教授 三浦　真琴	中止

※受講者数には、ピア・サポータの他、学生支援室TA、支援部署教職員を含む。

※②④⑤の受講者数には、ボランティアセンター学生スタッフも含む。

※⑥はボランティアセンター主催「学生生活で役立つコミュニケーションスキルセミナー」として開催され、受講者数にはボランティアセンター学生スタッフ、ボランティア団体所属学生、一般学生も含む。

※⑦は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止とした。

4　概要・受講者の声・講師からのメッセージ

①「ピア・コミュニティをマネジメントする」概要

はじめに、ピア・サポートの定義やボランティアとの違いについて説明があり、ピア・サポート活動は課外活動ではなく「教育活動」であり、「知識」や「技術」の実践活動であることを強調された。

続いて、マネジメントについて、その意味や必要性について説明があった。ピア・コミュニティをマネジメントするにあたっては、それぞれのコミュニティのミッションや目標を共有し、“ナナメの関係”（ピア・サポータ同士も支える側と支えられる側になりながら、みんなで成長していく関係）で、現在（短期）から未来（長期）に向けてのバランスをとり、状況に応じて柔軟に行ってほしいとの話があった。

最後に、関西大学におけるピア・サポートの取り組みについての説明や、より良いピア・サポート活動を行うためのコツの紹介があり、受講者にとって、ピア・サポート活動ついて改めて考え、今後のより良い活動のためのヒントを多数得る機会となった。

受講者の声

・ピア・サポート活動に関する根本的な部分、ボランティア、レスキューとの違いがはっきりして、非常に得るものが多い講座だった。また、学生の抱える問題についても知ることができ、企画を考える際に役に立つと思った。
・ピア・サポートとは学生の相互支援というとても大事な活動だとわかり、今後活動する上でその意義を意識して頑張っていこうと思った。
・今後どのようにピア・コミュニティを運営していけばいいかの方針がわかった。

講師からのメッセージ

この講座を担当させていただき４年目となりました。当初は、上位年次生が受講生の大半を占めていましたが、今年度は１年次生の受講生もおり、本学のピア・サポート活動の未来を感じました。

本講座での学びを活かして、全てのピア・サポータが「ナナメの関係」で繋がり、協働してピア・コミュニティの未来を創造してくれることを期待しています。

②「フェイルファスト（fail fast）～失敗を恐れず、チャレンジすること～」概要

冒頭の自己紹介では、学生時代にマスコミ業界でテレビ番組制作の仕事をしていたという異例の経歴についてお話しされ、大学に通わず業界の仕事をしていたことは、世間的にみればある意味「失敗だ」と強調し、今回のテーマについて切り出された。

その後、「探偵ナイトスクープ」を代表とした出演番組の映像をもとに、「おもしろい番組」を制作することに対する情熱やこだわりを述べられ、誰もが経験できることではない唯一無二のキャリア形成は、振り返れば多くの「失敗」が大きく影響していると説明された。番組制作上での経験においても、成功をイメージして意図的におも

しろくすることではなく、偶然が生み出す「失敗」がおもしろさにつながることについても語られた。

最後に、人生において素敵な偶然に出会うこと、予想外のものを発見することを「セレンディピティ」という言葉をつかって表現し、失敗してもその原因を見落とさずに学び取ることができれば成功に結びつくという、失敗を一種のサクセスストーリーに転換する考え方などについて、ご自身の経験をもとに分かりやすくお話いただいた。

受講者の声

・失敗をネガティブではなく、ポジティブに捉えることはとても難しいと思うが、少しずつ自分の行動を変えていきたいと思った。
・「楽しい」「おもしろい」は人間の大きなモチベーションであるので、失敗に対する価値観を変えることが自分に求められている気がする。その為には、自分が何よりも恐れている“失敗”をすることが必要であり、大学生の今の自分に必要なものであると思う。
・今まで失敗を恐れたり、できないと決めつけて挑戦することを止めてきたことが多くあったが、今日のお話しを聞いて、私は様々な可能性を失ってきていたのかもしれないと思った。今後、何か新しいことに足を踏み入れようとする機会があれば、今日のことを思い出してみようと思った。

講師からのメッセージ

失敗が怖いから身動きが取れないのは大人達の専売特許です。若いからできる失敗、学生だから許してもらえる失敗って、あると思います。物作りでいうプロトタイピングです。前段階で失敗しておけば、製品化してから作り直さなくていい。製品化にする前に、どれだけ失敗しておけるかが重要です。大人になってから失敗をしたくないのなら、今して下さい！

③「関西大学を知る」概要

はじめに、大きく①大学生数の変化、キャンパスライフの変化、学生気質の変化など、大学を取り巻く環境の変化、②AI や IoT を推進する政府の取り組みによる 15 年後以降の一般的に予想される社会構造の変化の 2 つの要因をもとに、関西大学がピア・サポート活動の取り組みを始めた経緯と今後の方向性について説明があった。

続いて、ピア・サポータとして身につけておきたい知識やスキル、ピア・コミュニティに期待すること、充実したキャンパスライフを過ごすために心にとめておきたいことなど、ピア・サポート活動を実践するために必要な知識や意識について、幅広くお話ししていただき、社会人基礎力についても言及があった。

受講者の声

・ピア・サポータとしての心得はもちろんのこと、学生として、関西大学の一員としての必要な考え方を学ぶことができた。キャンパスライフを充実させるため、自分の時間を見つめ直し、自ら行動を起こしていけるように、常にアンテナを張って学習し続けたいと思った。
・これから人生を歩む上でのアドバイスをたくさんしていただき、とてもためになった。それと同時に、ピア・サポータとして今日教えていただいたアドバイスを、他の人たちに教えられるようになりたいと思った。
・自分から働きかける、相手の能力等を気づかせてあげるといったことが今後の活動に活用できそうだと思った。

講師からのメッセージ

日頃のピア・サポータとしてのご活躍に敬意を表したいと思います。今、世の中ではグローバル化、ＩＣＴ化からＡＩ化へ、人生１０年時代、働き方改革、ワークライフバランスなどが話題となり、人として「いかに行動し、生きていくか」が問われてきているように思います。

皆さんは、自分だけでなく、他の人のために行動することに意義を感じて活動されていますが、大変素晴らしいことだと思います。

これからの予測困難な時代においては、様々な考えや経験を持った人がお互い支えあって、知恵を出し合って共存していくことが大切になってきます。ピア・サポータとしての活動経験が、将来、きっと役に立つだろうと確信しています。頑張ってください。

④「自分の中にある常識をぶっ壊せ！～リフレーミングという手法～」概要

我々には常に思い込みがあり、視野が狭くなる傾向がある。そんな固定観念を失くして、色々な角度から物事を見ることの大切さを理解するためには、固い頭を柔らかくする必要があり、その方法論の一つとして、「見立て」や「ファンセオリー」など、物事をおもしろがることで行動を変えることについて、ご自身の経験をもとに分かりやすくお話しいただいた。

社会規範や一般的な考え方を少し違った視点から見ることが具体的にどのようなことを指すのか、例をユニークな映像でご説明いただき、最後に「他人を疑うのではなく、自分を疑ってみる」という言葉とともに、環境や社会への批判ばかりせず、まず自分自身が行動を起こし変わることへの意識が重要であると述べられた。

受講者の声

・自分の固定観念を疑うという新たな発想を学べた。
・狭かった視野を広げられた。固定観念に縛られていては、おもしろいことを生み出せないと思った。
・リフレーミングは今後生きていく中で大変ためになると感じた。フレームでがちが

ちの自分を変えてみたい、そんな気持ちになった。

講師からのメッセージ

多様化の時代を迎えた今、様々な角度から物事を考えることはとても大切です。ところが理屈でわかっていてもなかなかできません。なぜなら、誰しも「思いこみ」が存在するからです。これはきっとこうだ！という長年の経験からくる思いこみが物事を別の角度から見ることを拒みます。思い込みを一度ぶっ壊して新しく組み直す、リフレーミングが必要です。

⑤「傾聴トレーニング」概要

はじめに、各自で普段の話し方、聞き方について振り返り、自身のコミュニケーションの特徴を考えた。続いて、「聞く・聴く・訊く」の意味の違いや、傾聴の基本的態度、反対に話し手への受容を妨げる要因について説明があり、傾聴とは相手の思いを聴き、理解することであり、そのようにして関わることで信頼関係が構築し、相手の自己理解が進むというような効果をもたらすことを学んだ。

次に、次年度から実施する「ピアカフェ」を想定し、3人グループになり、話し手（新入生）／聞き手（ピア・サポータ）／観察者の三役に分かれ、聞き手が手元で別の課題をしながら話を聞く「①ながらきき」のロールプレイに取り組んだ。続いて傾聴の技法を確認した後、もう一度グループになり、聞き手は傾聴の技法を取り入れて話を聞く「②思いを聴く」というロールプレイに取り組んだ。それぞれのロールプレイの後には、話し手／聞き手はどのような気持ちがしたか、観察者は話し手／聞き手の様子について感じたことなど、グループで振り返りを行った。

受講者の声

・普段の生活にも多くの応用が可能だと感じた。
・将来考えている進路では必要なスキルであり、実践してみたいと思った。
・話し手のメッセージを最後まで受け取ることの重要性を感じた。

講師からのメッセージ

日ごろの関わりがどのような状況なのか、振り返りをしただけで自己理解を少し深めることができたと思います。傾聴技法を実践（積極的なかかわり）することで信頼関係ができ、より良いコミュニケーションに繋がることを実感していただけたようです。学生生活やピア・サポートでの活用をはじめ、社会生活で必要なスキルだと思っています。今後のご活躍を応援しています。

⑥「ほめる達人講座」概要

講座全体を通して、講師の話を中心にペアワークや受講者全員を巻き込むワークが行われた。

第1回目では、「ほめる」ということや、「ほめる達人」とはどのような人であるか

を、講師自身の経験や実績を含めお話ししていただき、ほめる基本ポイントから何気ない日常生活でも相手をほめる「言葉を選ぶ」ことについて学んだ。

第 2 回目では、前回に引き続きほめる達人の挨拶や口癖といったすぐに実践できるポイントについて説明していただいた。また、「自分が言われて嬉しいほめ言葉」を書き出すことで、なりたい自分のロールモデルを意識するワークを行った。

第 3 回目では、「ほめ達！」検定 3 級の試験問題から、「価値の創造」「価値の発見」「人生の価値を伝える」の 3 項目について、講師の解説とともにペアワークを実施した。

受講者の声

・これまでいざ人を褒めようと思っても、褒め方を全然知らないため相手に伝わらないことが多かったが、今回講座を受講して褒め方を知ることができ、これからの自分の人生を良くするものだと感じた。
・自分のポジティブマインドの変化が相手の気分を良くさせることにつながることが分かった。今回学んだことをこれから意識したいと思う。
・ワークを行う中で、自分の考え方の変化が生まれた。

講師からのメッセージ

学生生活、就職活動ですぐに使えるコミュニケーションの要諦を実践型のレクチャーでお伝えしました。時間があっという間、こんなに楽しくて役に立つ講義は受けたことがない、そんな感想を拝見して求められていた内容だったのだと安心しました。ぜひ、学びを実践に！またお会いしましょう！

5　スキルアップ講座全体として

本年度、事務局は昨年度の課題であった「受講喚起につながるような魅力ある講座内容の検証」を行うことに重点を置き、7 つの講座（実施 6 つ、中止 1 つ）を開講することとした。新しい講座となる「フェイルファスト」「自分の中にある常識をぶっ壊せ」に関しては、本学の特任教授でコミュニティのアドバイザーでもある立場から、活動を通じて学生が持ち合わせる固定概念を払拭することや、失敗などに対する価値観をポジティブに変える考え方が必要であると思われたため、その目的に即した内容で実施することとした。また、秋学期に実施した「ほめる達人講座」は、計 3 回シリーズで講師をお招きし、シニア・サポータへの認定条件にカウントするだけでなく、その講座自体の認定（「ほめ達検定 3 級」）も行い受講者のモチベーション向上にも努めた。

「ピア・コミュニティをマネジメントする」「関西大学を知る」に関しては、昨年度も実施した内容であるが、関西大学ピア・サポート研修である「ピア・サポートって何だろう」「自己理解」との相関性があると考え、基礎的な内容をより深めていくことを目的に引き続き実施することとした。また「傾聴トレーニング」は活動を通じて必要とするアドバンストなスキルの調査をピア・サポータへ行った結果、「傾聴力」

の回答が多く見られた。また次年度運営本部を中心に「ピアカフェ」を実施する計画があったため、その必要性も併せて継続実施を行うこととした。

各講座別の「受講者の声」を見ても概ね成果があがったと言えるが、昨年に引き続き全般的に参加者数の伸びが見られない。次年度は研修参加への自主性をさらに高めるために、各コミュニティ内の課題を研修内で解決できるような「PBL 型」の研修を行うことも検討していきたいと考える。

第 1 回「ピア・コミュニティをマネジメントする」より

第 2 回「フェイルファスト（fail fast）」より

1.5　効果測定

■調査概要

ピア・サポータに自らについて振り返る機会を提供し気づきを促すとともに、その気づきを集約しピア・サポート活動を行うことの効果としてまとめることを目的として、2014 年度から 2018 年度の 5 年間、「ピア・サポート活動に係るアンケート」調査を行ってきた。調査データの一部である自由記述などから、当初単年度では見出せなかった変化や成長が、前年度との比較において如実に確認できた点は一定の成果があったと言える。

ただ蓄積されたデータをさらに具現化するためには、年 1 回程度調査で前年度調査との比較だけではなく、ピア・サポート活動を通じたピア・サポータの入学時からのスキル向上や、一定の指標に基づいた学年ごとの推移を経年比較する必要があり、本年度より教学 IR を活用した効果測定を行うこととした。

■調査目的・方法

ピア・サポート活動を行う学生を対象に、一定の指標に基づいた具体的なスキルの向上を検証するため、学年ごとの入学時データと本年度実施した調査結果をもとに段階的な分析（分析①→分析②）と、学年ごとのスキル変化の比較（分析③）を行った。

スキルの指標は、本学のディプロマ・ポリシーに準拠した「考動力コンピテンシー（自律力・人間力・社会力・国際力・革新力)」及び「リテラシー」「レジリエンス」とし、以下の測定項目と回答方法にしたがってアンケート調査を行った（ただし、本調査のスキル対象は考動力コンピテンシーの 20 項目のみとした)。

考動力コンピテンシー測定項目（26 項目）

1．考動力コンピテンシー（20 項目）
- A) 自律力（4 項目）
- B) 人間力（4 項目）
- C) 社会力（4 項目）
- D) 国際力（4 項目）
- E) 革新力（4 項目）

2．リテラシー（3 項目）

3．レジリエンス（3 項目）

回答方法：リッカート形式（4 段階）

関連項目の平均値を算出し分析に使用

1. 1（まったくあてはまらない）
2. 2（あまりあてはまらない）
3. 3（ややあてはまる）
4. 4（とてもよくあてはまる）

■調査対象

1．プレ調査　：2019 年 10 月、86 名（1 年 19 名、2 年 22 名、3 年 25 名、4 年 20 名）

2．ポスト調査：2020 年 3 月、 53 名（1 年 12 名、2 年 17 名、3 年 17 名、4 年 7 名）

分析対象：どちらも回答した学生　47 名（1 年 9 名、2 年 16 名、3 年 16 名、4 年 6 名）

■分析内容

1．分析①

考動力コンピテンシー（総合）学年ごとのプレ調査とポスト調査の平均値の比較を行った。

・総合の考動力コンピテンシー（1-A～1-E の 20 項目の平均値）

・学年ごとにプレ調査とポスト調査の平均値を比較（表 1、図 1）

表 1　プレ調査とポスト調査の考動力コンピテンシーの平均値とその差の検定結果

	平均値				検定統計量			
	プレ		ポスト		*t*	*df*	*p*	
1 年生	3.06	(0.42)	3.09	(0.42)	-0.78	8	.456	
2 年生	2.83	(0.35)	2.89	(0.34)	-0.98	15	.344	
3 年生	3.09	(0.37)	3.25	(0.49)	-2.21	15	.043	*
4 年生	2.99	(0.24)	2.95	(0.48)	0.37	5	.729	

注：（ ）内は標準偏差

注：*は統計的にプレとポストの差が有意（*P* ＜.05）であることを示す

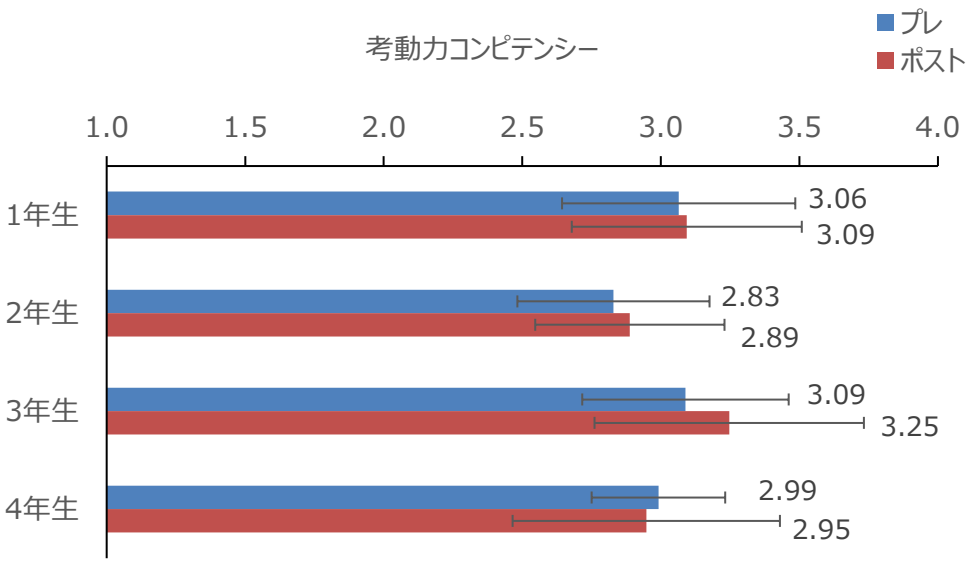


図 1　学年ごとにプレ調査とポスト調査の平均値を比較

注：図中の数値は平均値。誤差棒は標準偏差

2．分析②

分析①の結果から、3 年生において、プレ調査とポスト調査の差が有意であったため、3 年生に焦点を絞って考動力の次元ごとにプレ調査とポスト調査を比較した。

・分析対象：3 年生 16 名

・分析指標：考動力コンピテンシーの各次元（1-A・1-B・1-C・1-D・1-E）

・次元ごとにプレ調査とポスト調査の平均値を比較（表 2、図 2）

表２　3 年生のプレ調査とポスト調査の各考動力次元の平均値とその差の検定結果平均値

	平均値				検定統計量			
	プレ		ポスト		*t*	*df*	*p*	
自律力	3.19	(0.38)	3.38	(0.48)	-1.54	15	.144	
人間力	3.11	(0.49)	3.23	(0.57)	-1.33	15	.204	
社会力	3.09	(0.40)	3.41	(0.54)	-3.37	15	.004	*
国際力	2.88	(0.58)	2.97	(0.56)	-1.46	15	.164	
革新力	3.20	(0.42)	3.28	(0.58)	-0.66	15	.518	

注：（ ）内は標準偏差

注：*は統計的にプレとポストの差が有意（*P* ＜.05）であることを示す

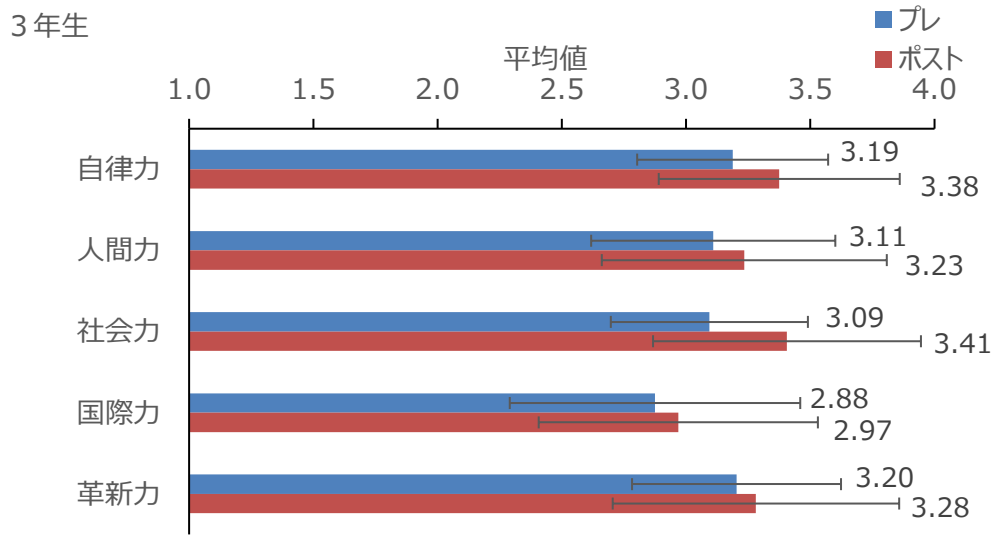


図２　次元ごとにプレ調査とポスト調査の平均値を比較

注：図中の数値は平均値。誤差棒は標準偏差

３．分析③

学年ごとに、入学時調査の結果も加え、3 時点間（入学時及びプレ、ポスト調査）の比較を行い、入学時からの考動力コンピテンシーの変化を検証した（各平均値は表 3 と図 3、分散分析による検定結果は表 4 を参照）。

各学年の入学時データは以下の年度に実施された調査が対象となる。

1. 1 年生←2019 年度入学時調査（9 名）
2. 2 年生←2018 年度入学時調査（16 名）
3. 3 年生←2017 年度入学時調査（11 名）
4. 4 年生←2016 年度入学時調査（2 名）

表 3　学年ごとの入学時・2019 年度中期・2019 年度後期の考動力コンピテンシーの平均値

	入学時	2019 中期	2019 後期
1 年生	3.00 (0.40)	3.06 (0.42)	3.09 (0.42)
2 年生	2.96 (0.30)	2.83 (0.35)	2.89 (0.34)
3 年生	2.96 (0.58)	3.13 (0.44)	3.28 (0.55)
4 年生	2.78 (0.32)	3.03 (0.11)	3.05 (0.22)

注：（ ）内は標準偏差

図 3　学年ごとの入学時・2019 年度中期・2019 年度後期の考動力コンピテンシーの変化

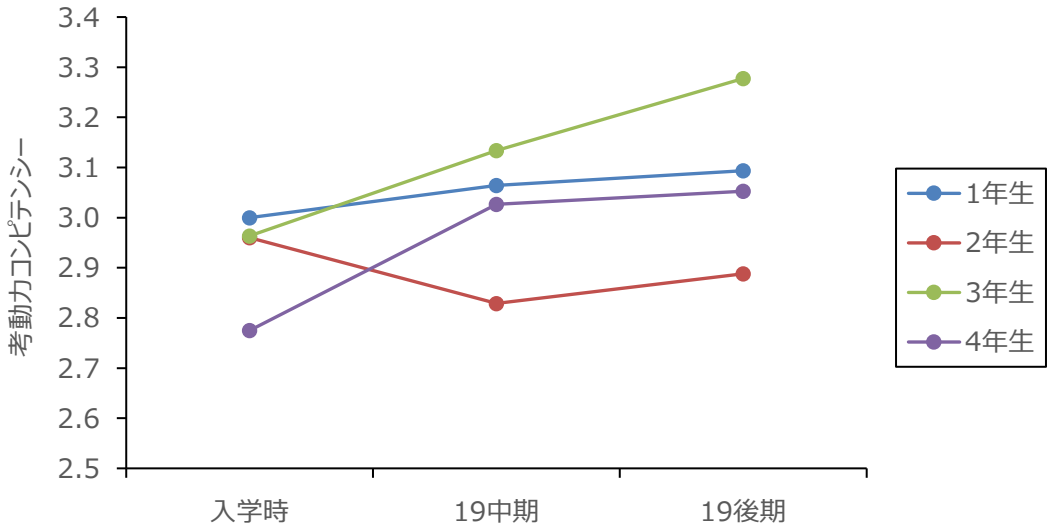


表 4　学年ごとの分散分析（入学時・2019 年度中期・2019 年度後期）結果

	Sum Sq	num df	Error SS	den df	F value	p value
1 年生	0.04	2	0.95	16	0.35	.712
2 年生	0.15	2	1.16	28	1.85	.176
3 年生	0.54	2	2.33	20	2.34	.123
4 年生	0.09	2	0.02	2	4.39	.185

注：どの学年の学生においても、3 時点間での差があるとは言えないことを示す

■調査結果

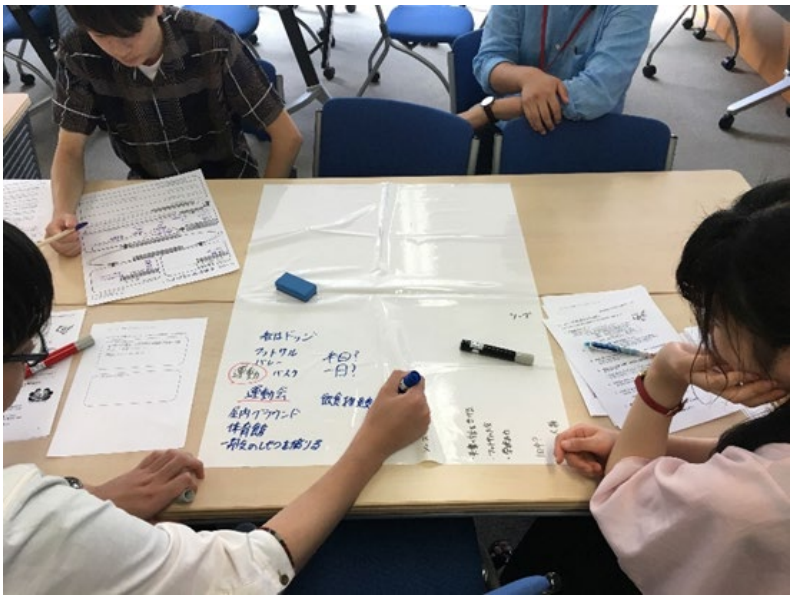
1 年生、2 年生、4 年生においてはプレ調査とポスト調査の差は有意ではなかったが、3 年生においては、プレ調査時の考動力コンピテンシーよりもポスト調査時の考動力コンピテンシーの方が有意に高い結果が得られた（分析①の結果）。

分析①の結果を踏まえ、プレ調査とポスト調査の差が有意であった 3 年生に絞り、考動力コンピテンシーの次元ごとにプレ調査とポスト調査の平均値を比較した。その結果「社会力」に限ってはプレ調査時よりもポスト調査時の方が有意に高いことが示され、本活動にて、社会の規範の遵守や課題の発見、社会貢献に対する意識が醸成されていることが伺えた（分析②の結果）。

また学年ごとの 3 時点（入学時・2019 年度中期・2019 年度後期）の考動力コンピテンシーの変

化においても、3 年生の成長は半期における短期間でも成長傾向にあることが伺える。また成長の傾向は 2 年生の後半からみられることから、各々の活動コミュニティでの経験値がスキルに結びついていることが考えられる。

ただし、唯一、下降傾向が見られる入学時から 2 年生中期にかけての期間は、各々のコミュニティでの活動経験が多くなる分、失敗の経験も多くなる。それこそが成長の原動力となる可能性がある一方で、モチベーションの低下につながっていることが懸念される。よって、1 年生の後期にはモチベーションの維持につながるようなフォローアップ体制を検討していく必要が考えられる。



2　ピア・コミュニティの活動報告

2.1　ピア・コミュニティ活動のあゆみ

2008 年度に発足した「国際コミュニティ“KU ブリッジ”」、「ピア・コミュニティ運営本部」、「ピア・スポーツコミュニティ」、2009 年度に発足した「KU サポートプランナー」、「KU コアラ」、「KU サポーターズ」、「ぴあかんず」、2010 年度に発足した「i.com」、あわせて 8 つのピア・コミュニティが、これまでピア・サポート活動を行ってきた。そして、2018 年度には 9 つ目のピア・コミュニティとして、新たに「関西大学学生 PR チーム SUGaO」が発足した。本年度は 6 年間活動停止状態にあった、「ピア・スポーツコミュニティ」の活動再開を行うことができた。4 月から 5 月にかけて、4 名の新入生が活動再開を後押しし、支援部署を中心にスポーツに関わる既存の活動団体（関大スポーツ、KBC、体育会本部、応援団リーダー部）やボランティアスタッフとの共同開催などの連携を推し進めることによって、今後さらに活動が活発化することを期待している。

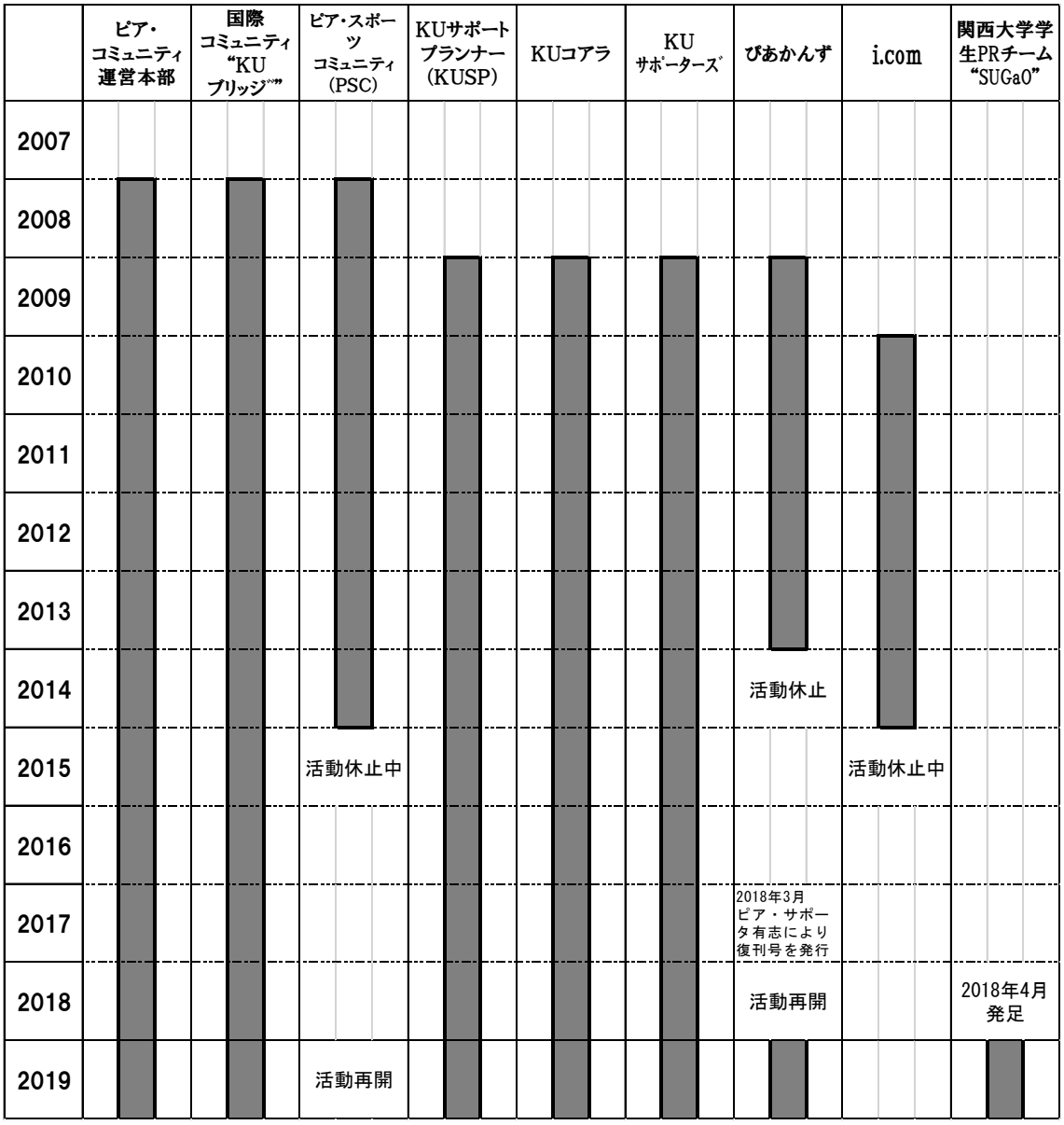
以下の表は、2019 年度における各ピア・コミュニティのあゆみである。メンバー不在により活動できなかったコミュニティがあり、継続して活動の再開に向けて方策を考えていきたい。

▼年間の活動状況

	運営本部	KU ﾌﾞﾘｯｼﾞ	PSC	KUSP	KU ｺｱﾗ	KU ｻﾎﾟｰﾀｰｽﾞ	ぴあかんず	i.com	SUGaO	代表者会議
2019 年										
4 月	・新入生誘導活動 ・新入生歓迎ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ ・合同説明会	・ようこそ関大 2019 ・KU ﾊﾞｻﾞｰ		・第 2 回 ﾋﾟｱ・ｶﾌｪ						17 日
5 月					・読書好き交流会					8 日 22 日
6 月	・Welcome to ﾋﾟｱ・ｺﾐｭﾆﾃｨ	・新緑ﾊｲｷﾝｸﾞ	・PSC ｽﾎﾟｰﾂ大会	・現役関大生が教えるﾌﾟﾚｾﾞﾝ教室	・特集本展示「関大出身者の著書」				・総合関関戦 PR ｲﾍﾞﾝﾄ ・関関戦取材	5 日 19 日
7 月		・ｽﾎﾟｰﾂ大会								3 日
8 月									・ｻﾏｰｷｬﾝﾊﾟｽでの SUGaO ｲﾍﾞﾝﾄ	8 日
9 月	日本ピア・サポート学会第 18 回総会・研究大会への参加 ピア夏合宿並び上半期報告会									2 日 30 日
		・ｷｬﾝﾊﾟｽﾂｱｰ								
10 月		・KU ﾊﾞｻﾞｰ ・KUBridge tour in Rokko								21 日
11 月	・学園祭企画謎解きﾗﾘｰ	・和菓子作り			・模擬店企画～注文の多い料理店～				・統一学園祭取材	11 日 25 日
12 月	ぴあのわ in 愛媛への参加									9 日
		・ｸﾘｽﾏｽﾘｰｽ作り			・古本交換市		・SNS 開設			
2020 年										
1 月			運動をもっと身近に！							

2 月	・のぼり、ﾌﾗｯｸﾞの作成									10 日
3 月	2020 スタートアップミーティング									9 日
	・ﾎﾟﾛｼｬﾂの作成	・春学期キャンパスツアー			・機関誌の発行					

▼【参考】各ピア・コミュニティのあゆみ



2.2　ピア・コミュニティの活動

この章では、ピア・サポータからの声を中心にピア・コミュニティの趣旨と特徴、各活動の実際を紹介する。

2.2.1　ピア・コミュニティ運営本部

■　ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部（以下、「運営本部」という）は、存在するすべてのピア・コミュニティを見渡し、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポータの合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進している。このほか、関西大学におけるピア・コミュニティの普及と各ピア・コミュニティの活動支援を行っている。

■　所属人数

16 名　＊1 年次 1 名、2 年次 4 名、3 年次 6 名、4 年次 5 名（2020 年 3 月末現在）

■　ミーティングの概要

週 1～2 回（曜日は不定期。随時、調整。）

■　ピア・コミュニティ内の連携

今年度も会議の改善と研修生がピア・サポート活動に積極的に関わっていける環境づくりに努めた。

会議を 1 週間に 1 回設け、メンバーの出席率が高い日程と時間に設定した。また、欠席者のために議事録をメーリングリストで送信する、定例会議とは別に情報共有の時間を設けるなどの取り組みによって、会議において活発な議論が行えた。

企画を進めていく際は、必ず研修生数名を交えて行った。こうすることで、研修生は活動になじむことができ、今後企画を運営していく上でのノウハウを学ぶことができた。

■　ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、合宿などの合同企画を通じて、すべてのピア・コミュニティに所属するメンバー間の交流を促進させ、連携を深めることができるように活動している。

■　教職員との連携について

昨年度から、サポータ自身が考えて行動できるようになる中で、支援母体であるボランティア活動支援グループの教職員から、要所で助言をいただきながら活動を進めてきた。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポートを目指していきたい。

■　課題

今年度初めての試みとしてピア・コミュニティ全体による合同説明会を行った。4 月中旬に 2 日間、凜風館 1 階のピアエリアで開催したが、予想以上の盛況ぶりで、ピア・コミュニティに興味を持ってくれた人も多くいたため、次年度以降も続けていきたいと考えている。しかし、ピアエリアでは会場が狭かったため、より大きな会場を利用して行い、ピア・コミュニティの規模の拡大につなげたい。

企画進行については、年間を通してほとんどを 2 年次で行ってしまい、1 年次に経験を積んでもらうことができなかったように感じる。今後の活動では、次代のピア・サポータの育成も並列して行いながら企画を進めていきたい。

また、企画の担当者の負担が大きくなってしまうことがたびたび起きた。担当者は多忙になるが、それ以外のメンバーがあまり企画に参加した感じがせず、これはモチベーションの低下にもつながるため、来年度は担当者の負担を減らしつつ、コミュニティ全体で企画に取り組めるよう役割分担を行う対策を行いたい。

◆企 画 名　新入生を迎えよう！（新入生誘導活動）
日　　程　2019 年 4 月 1 日（月）
場　　所　関西大学　千里山キャンパス
参加者数　11 名（ピア・サポータ 9 名、研修生 2 名）
目　　的

・新しく関西大学の仲間（peer）となった新入生に対し、誘導活動を行うことで、新入生へのピア・サポートを行う。
・ピア・コミュニティを知ってもらうきっかけとし、今後の広報活動に繋げる。
・ピア・サポータ間の交流を促進し、今後の円滑な活動に繋げる。

内　　容

入学式開始の約 1 時間前より、正門を中心とした学内での新入生・保護者の方の式場への誘導、写真撮影の補助、スムーズな人の流れや通路確保のためのアナウンスを行う。
また、入学式終了時刻に合わせて、式場周辺で待機し、新入生・保護者の方からの質問や問い合わせに応じる。

効　　果

・新たに関大生の仲間（peer）となった新入生を歓迎し、新入生や保護者の方のサポートを行うことができた。
・他コミュニティからの参加もあったので、運営本部の活動理念の一つであるコミュニティ間の交流もできた。

改 善 点

・記念撮影場所の一つである関西大学の石碑の場所では、列に並ばず、前からそのまま記念撮影をする新入生や保護者の方が見受けられたので注意喚起が必要となった。その際メガホンがあると便利であることがわかったので、必要であれば来年度はメガホンを準備しておくと良いであろう。
・午後の活動では雨が降ることがあったため、写真撮影をする方の荷物を入れる箱があれば良かった。来年度からは荷物入れの箱を用意することを検討したい。

感　　想

今年度の入学式誘導活動は、昨年度よりも参加人数が少なく、各配置場所における一人の作業内容がより多かった分、一人ひとりがしっかりと責任感を持って行動できて良かった。
午後には雨が降り、活動が一時的に中断されることもあったが、活動中に新入生や保護者の方に労いの言葉をかけていただいたり、新入生の楽しそうな表情が見ることができ、とても有意義な活動となった。
今年度の反省を忘れず、来年度の活動に繋げていきたい。

◆企 画 名　新入生歓迎オリエンテーション
日　　程　2019 年 4 月 2 日（火）～4 月 4 日（木）
場　　所　総合学生会館凜風館周辺
参加者数　18 名（ピア・サポータ）
目　　的

・新入生歓迎オリエンテーションに参加し、ビラの配布や看板によるピア・サポートの普及と、ピア・コミュニティの広報を行う。
・新入生歓迎オリエンテーションを通して、各コミュニティそれぞれで新入生のメンバーを募り、関西大学ピア・コミュニティ全体の規模の拡大を図る。

内　　容

今回は、KU サポートプランナー、KU コアラ、運営本部の 3 つのコミュニティがブースでの説明およびビラの配布等の広報活動を行った。この他、ピア・コミュニティ全体として、サークルガイドへの紹介ページの掲載、看板の設置を行った。
同時にボランティア活動支援グループのご協力のもと、新入生指導行事の中のボランティアガイダンスでピア・コミュニティの紹介を行った。この紹介は、KU サポートプランナー、運営本部、KU ブリッジ、SUGaO が実施した。

効　　果

各日のブースへの来場者数は、2 日（火）12 名、3 日（水）33 名、4 日（木）28 名の合計 73 名であった。多くの新入生に、ピア・コミュニティについて説明を行うことができ、各コミュニティへの入会へとつながった。

改 善 点

・自分の所属するコミュニティ以外のコミュニティに対する理解不足
　→ブースでの説明の際、他コミュニティに関する質問に対して答えられない点があったことから、コミュニティ間の相互理解を深めるとともに、可能であれば全コミュニティがブースに参加できるように日程調整を行ったり、各コミュニティの入会希望者への対応を共有すべきである。
・各コミュニティの説明資料や説明の機会の不足
　→新入生がブースに参加していないコミュニティとつながるためには、個別に連絡を取る必要がある。その点に関して、合同説明会や資料配布等の工夫を行う必要があると感じている。（4 月 22 日、25 日にピア・コミュニティ合同説明会を実施した）
・ブースの設置場所の工夫
　→昨年度と同じ凜風館の軒下で行ったが、可能であれば例年の設置場所より、道路上に設置した方が良いという意見があった。また、ボランティア学生スタッフのように、のぼりを設置するなどして、ピア・コミュニティのブースを目立たせる必要があると感じた。

感　　想

各学部のボランティアガイダンスでの、ピア・コミュニティの活動紹介は今年度初めて実施したが、この紹介をきっかけにブースに来てくれる新入生が多くいたため、来年度以降も積極的に行っていきたい。
ブースでのピア・コミュニティの説明については、まだまだ改善の余地があるため、簡潔かつ詳細に説明ができるように、全コミュニティで情報を共有し、準備していきたい。また、入会希望者への対応も全コミュニティで共有すべきである。

◆企 画 名　第一回　ピア・コミュニティ合同活動説明会
日　　程　2019 年 4 月 22 日（月）、25 日（木）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア
参加者数　17 名（ピア・サポータ 14 名、研修生 3 名）
目　　的

本企画は、ピア・コミュニティの活動内容や理念を関大生に知ってもらう広報活動の企画である。ピア・サポートやそれを実践する各コミュニティの活動を紹介し、1 年次生を中心にピア・コミュニティへの理解・関心を高め、活動に参加するメンバーを増やすことを目的とする。

内　　容

各コミュニティの代表者が、それぞれのコミュニティの活動の紹介を行い、その後ボランティア活動支援グループの担当職員の方からご挨拶をいただいた。最後に、参加者からの質疑応答を行った。

効　　果

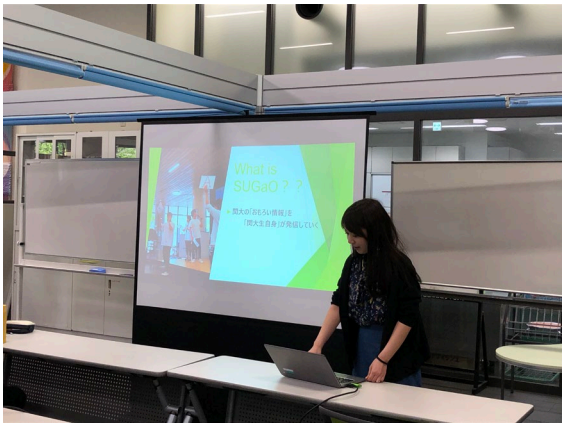
新入生が所属する団体を探しているこの時期に実施できたことは、ピア・コミュニティの存在を周知し、活動に参加するメンバーを増やすという点について非常に有用な機会であった。実際にメンバーとして活動に参加するきっかけを作れたことは、コミュニティにおけるメンバー不足の問題に対して一つの解となるものである。

改 善 点

計画から実施までの期間が短く、参加人数の把握と資料の準備が十分ではなかった。そのため、椅子、机、資料の数が不足する事態になった。次回以降は、事前に広い会場を確保するなど、余裕を持って準備を行いたい。

感　　想

本企画は、新入生からの開催の要望を受けて実現した企画であり、全コミュニティが協力して、多くの学生に興味をもってもらうきっかけを作ることができたことは、非常に有意義であった。今後は、合同説明会がきっかけで入会した学生の割合などをフィードバックできるようにし、より合同説明会の効果を測定できるようにしたい。また、春学期のメンバーの募集状況を見ながら、秋学期の開催についても検討したい。



◆企 画 名　Welcome to ピア・コミュニティ
日　　程　2019 年 6 月 3 日（月）、6 月 5 日（水）
場　　所　東体育館多目的ルーム
参加者数　3 日：14 名（ピア・サポータ 3 名、研修生 11 名）
　　5 日：22 名（ピア・サポータ 4 名、研修生 18 名）

目　　的

・ピアエリアの利用方法などについて研修生に知ってもらうことで、今後の活動を円滑にすすめられるようにする。
・研修生にピア・コミュニティを理解してもらう。
・楽しみながらワークを行い研修生同士の交流を促すことで、コミュニティ間の連携につなげる。

内　　容

・アイスブレイク
　マンションの住人を当てるゲームである､｢いろいろな人が住むマンション｣を行った。それぞれに数枚の情報カードを配り、各自が持っている情報を口頭で共有し、全員で協力して住人を考えることで情報共有の大切さを感じ取ることを目的とした。また、話しやすい環境を作ることで、参加者が今後ピア・サポート活動を行っていく中で継続的な交流を持てるようにした。
・ワーク
　グループに分かれてクイズ大会を行った。クイズを通してピア・サポート活動の詳細や、今後活動するにあたり必要な知識などを伝えた。また、グループで一つの答えを出してもらうようにすることで、研修生同士の交流を図った。
・ピアエリア説明
　ピアエリアに戻り、備品の取り扱いなどピアエリアを使用する際の注意点について研修生マニュアルを用いて説明した。

効　　果

・他コミュニティの人ともゲームを通して打ち解けることができていた。
・ピアエリア内での鍵の保管場所など細かい点をクイズで知ってもらうことができた。
・ピアエリアの説明の際、マニュアルを使用しての説明と実際に見てもらうことで、より理解してもらうことができた。

改 善 点

・アイスブレイクのルール説明の際に、あいまいな話し方になっていたのか伝わりにくい部分があったので、リハーサルをしっかりするべきだった。
・ワークで重複する情報があると、研修生が少しつまらなそうにしていたので、もう一工夫した方がよかった。
・2 回目のピアエリア案内の際は参加者がとても多く、細かい部分を見ることができなかったとの声が研修生から上がったため、グループに分けるなどの対応を臨機応変に行うべきだった。

感　　想

・研修生が最初は静かだったのが、ワークを行ううちに打ち解けているのが分かり、楽しみながら交流してもらうことができたと思う。
・クイズ形式でピア・サポート活動やピアエリアについて知ってもらい、その後に研修生マニュアルを渡したことで、事前に情報があるため理解しやすくなったのではないかと思う。

◆**企 画 名**　日本ピア・サポート学会第 18 回総会・研究大会　ピア・サポートの原点を求めて―よさこいスピリットを生かして―

日　　程　2019 年 9 月 15 日（日）～9 月 16 日（月）

場　　所　高知工科大学永国寺キャンパス

参加者数　4 名（ピア・サポータ 3 名、研修生 1 名）

目　　的

・ピア・サポート学会への参加を通して、全国のピア・サポータと交流する。
・今後のピア・サポート活動をする上でのヒントとするために、他大学の活動状況を知る。
・ピア・サポート活動の原点を再確認し、今後のピア・サポート活動の発展の方向性を考える。

内　　容

【1 日目】
・ワークショップ　第 6 部会ピア・カフェ＜学生交流企画＞に参加
・開会行事・大会趣旨説明「土佐の教育改革でのピア・サポート推進事業とその後①」
・研究・実践発表（分科会）　全部で 6 つの分科会に参加
・情報交換会（懇親会）

【2 日目】
・総会
・大会企画シンポジウム「土佐の教育改革でのピア・サポート推進事業とその後②」

効　　果

・ピア・カフェで、他大学のピア・サポート活動をする上での悩みを知ることができた。それはモチベーションの保持や、知名度の低さゆえに参加者が集まらないなど、関西大学のピア・コミュニティが抱える悩みと同じものもあった。
・悩みの共有にとどまらず、オープンキャンパスなどで高校生相手に広報することで、新入生の中での知名度を上げるなど、具体的な解決策を他大学から提案してもらうことができた。
・ピア・サポート活動がどういった経緯で日本に広まり実施されてきたのかを知ることで、ピア・サポート活動の方針について理解が深まった。

改 善 点

・具体的な活動について尋ねられた時に、自分の所属しているコミュニティについては答えることができたが､他のコミュニティについては大雑把にしか説明できなかったので、すべてのコミュニティの活動を詳しく知る必要がある。
・ピア・カフェの時に、関西大学のピア・サポート活動の悩みについての解決策を提案してもらったものの、こちらから他大学の悩みに対する解決策を提案してあげられなかった。ピア・サポート活動を積極的に行って、経験を重ねる必要があると感じた。

感　　想

・学会ということもあり、具体的な活動内容の報告よりもピア・サポート活動による成長結果の報告の場であると感じた。また、発表の多くは小学校や中学校でのピア・サポート活動であった。そのため参加している大学生も少なかった。
・ある大学では、大学からの助成があまり出ないため、学生の高知までの移動費の負担が大きく参加できなかったと仰っていた。日本全国からそれなりに行きやすい関西大学が中心となって他大学交流の場を設けることを考えたい。

◆企 画 名　2019 年度　関西大学ピア・コミュニティ夏合宿並びに上半期報告会
日　　程　2019 年 9 月 19 日（木）～9 月 20 日（金）
場　　所　関西大学セミナーハウス高岳館、千里山キャンパス　ソシオ AV 大ホール
参加者数　夏合宿：34 名（ピア・サポータ 17 名、研修生 12 名、教職員 5 名）
報告会：78 名（ピア・サポータ 31 名、研修生 22 名、一般学生 1 名、学生支援室 TA1 名、ボランティアセンター学生スタッフ 12 名、教職員 11 名）

目　　的

・ピア・コミュニティの枠を超えて交流することで、ピア・サポータ同士の絆を深め、同じピア・サポート活動を行う仲間であることを感じてもらい、今後のコミュニティ間の連携を促進する。
・春学期の各コミュニティの活動状況の報告と、秋学期に向けた実施計画の発信を行い、お互いの活動を労う機会とする。

内　　容

【夏合宿】
・アイスブレイク
・本部ワーク「プレゼン講座」
・ピア・コミュニティ全体レクリエーション
・職員より「ピア・コミュニティの現状および今後について」
【報告会】
・各コミュニティの春学期活動報告と秋学期の実施計画の発信
・シニア・サポータの認証式
・座談会　ファシリテーター：越前屋俵太氏（学生 PR チーム SUGaO アドバイザー）

効　　果

・夏合宿のレクリエーションでは、ピア・コミュニティ全体で 1 つのゲームを行うことで、ピア・サポータ間のコミュニケーションを促進することができた。
・報告会では、他コミュニティの活動を知る機会となり、また活動報告の内容から成功体験や反省点等の共有ができて、そこから新たな気づきを得ることもできた。
・シニア・サポータの認証式は、今回初めて行われ、今後シニア・サポータを目指すピア・サポータたちのモチベーションにつながった。

改 善 点

・夏合宿に関して、参加者に対する持ち物の連絡やタイムテーブルの共有が前日になってしまい、もっと早く連絡してほしいという意見があった。担当者が忘れていたことで連絡が遅くなってしまったので、途中経過をコミュニティ全体で確認することを徹底する。
・レクリエーションについて、担当者の都合がつかずリハーサルを行えなかった。担当者の人数を増やし、必ずリハーサルができる状態を作っておく。
・報告会では、一般の参加者が少なかったため、周知の方法や頻度を検討したい。

感　　想

・夏合宿では、交流に重きを置いて企画し、レクリエーションは全体で盛り上がり、アンケートでも、今後も続けてほしいという声があった。ピア・サポータ同士のコミュニケーションのきっかけになっていたら嬉しい。
・報告会では、多くのピア・コミュニティのメンバーが集まり、各コミュニティについて知り、また今後のピア・コミュニティについて考える良い機会になった。今後の恒例企画としたい。

◆**企 画 名**　謎解きラリー

日　　程　2019 年 11 月 1 日（金）～11 月 4 日（月）

場　　所　関西大学千里山キャンパス（企画に関する案内所とゴール地点は総合学生会館凜風館 1 階ピアエリア）

参加者数　36 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 5 名、一般参加者 26 名）

目　　的

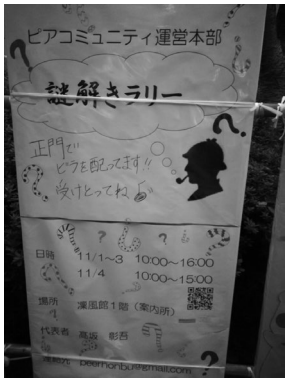
① 学園祭という関西大学に大勢の人が集まる機会を利用し、ピア・コミュニティについて気軽に知ってもらえる場を提供する。
② スマートフォンを利用し、誰もが簡単に参加できるようにすることで学園祭をより楽しんでもらう。

内　　容

あらかじめ場所が答えとなる謎解き 6 問を配布して、学内 6 カ所に QR コードを貼っておく。QR コードを読み取った先のページにて、各キーワードとともに各コミュニティの紹介をする。キーワードを全て集めると URL になるようにし、そこでの表示から凜風館 1 階にゴールを設けていることを伝える。ゴールでは広報の一環として、ピア・コミュニティのクリアファイルを配布した。

〔QR コード貼り付け場所〕

新関西大学会館南棟、立て看板、IT センター外の柱、イノベーション創生センター事務室前、凜風館 1 階ピア・コミュニティ掲示板、動く人



効　　果

スマートフォンを使い、ゲーム感覚で参加してもらえたと思うが、問題が難しかったなどの改善点もあり、ピア・コミュニティについて気軽に知ってもらえたとは言えない。

改 善 点

・模擬店の混雑により、学内をスムーズに動くことができないため、参加しにくい。
・問題や URL がわかりにくい・難しいと言われたため、もっと気軽に参加できる内容にするなど、参加者層を広くする工夫が必要。
・ビラの確認不足があったため複数のメンバーに確認してもらうべきだった。
・午後にビラを配布しても受け取る人が少ないため、景品を受け取りに来る人を待つだけになってしまった（当日の活動が少ない）。
・4 日間行うのは長かった。
・今回の企画における改善点は事前に想定されていたが解決しないまま進めていた部分があったため、もう少しコミュニティの会議で話し合うべきだった。

感　　想

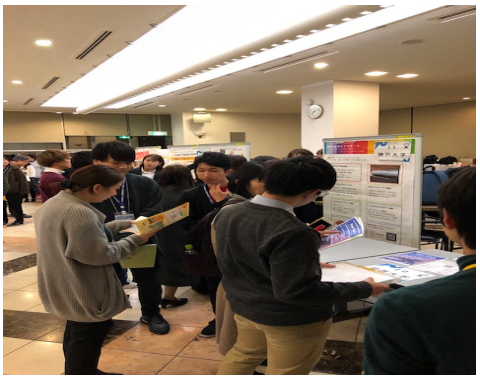
今回の企画は初の試みで、QR コードの貼り付け場所を学祭実行委員会の方に各建物へ許可を取ってもらう必要があるなど何をどうすれば良いのかわからない部分が多く、少しやり取りが大変だったという思いがある。もし今後謎解きラリーをすることがあれば、もう一工夫してより簡単に目的を達成できる企画にしたいと思う。

◆**企 画 名**　全国大学ピアサポーター合同研修会「ぴあのわ in 愛媛」
日　　程　2019 年 12 月 7 日（土）～12 月 8 日（日）
場　　所　愛媛大学・松山大学
参加者数　6 名（ピア・サポータ 5 名、職員 1 名）
目　　的

・ぴあのわ in 愛媛への参加を通じて、全国のピア・サポーターと交流する。
・様々なセッションに参加し、参加者のピア・サポート力の更なる養成を図る。
・自分自身で考察を行うことより、ピア・サポートを担う中で得た経験を学びに可視化する。

内　　容

【1 日目】
・お接待ツアー
・記念講演「ハテナに学ぶ」
・ピア・サポート力養成講座(1)、(2)
・夜楽塾
　基調講演「創造力を生む『遊び』」
　ポスターセッション
【2 日目】
・学生セッション
・ワールドカフェ



効　　果

・日本全国のピア・サポーターと交流することができ、関西大学のピア・コミュニティについて広報することができた。
・学生セッションにおいて、各々が他大学のピア・サポート活動を体験することができ、今後の企画に活かせるアイデアを得ることができた。
・ピア・サポート力養成講座を通じて、自分や関西大学ピア・コミュニティに足りないものを自覚する一方で、関西大学独自の取組や自身のスキルなども自覚し、「経験を学びに可視化する」ことができた。

改 善 点

・他大学の参加者には 1.2 年生が多く、より多くの学びを得てピア・サポート活動に活かすために、本学も 1.2 年生に参加してもらう必要があると感じた。
・他大学の参加者として教職員も一定数おり、本学からも多くの職員が参加していただけることを望む。

感　　想

・積極的に様々な大学のピア・サポーターと交流し、親睦を深められた。その中で、他大学のピア・サポート活動と関西大学の活動を比べることで大きく異なる点や、似た悩みなどを発見することができ、それらを共有できたことは非常に貴重な経験になった。
・夜楽塾において、職員が一緒にいてくださることによって、他大学のピア・サポーターだけでなく、教職員ともつながりやすくなり大変心強かった。
・主催者の許可を得て、本学で実施する他大学交流会「Peer-Kan's」のお知らせができ、多くの大学に興味を持ってもらえた。今回の参加で、他大学のピア・サポーターが悩みの共有や解決を望んでいることが分かったので、「Peer-Kan's」のプログラムの参考にしたい。また、運営面でも参考にしたいところが多々あった。
・来年は、名古屋大学・岐阜大学共催でぴあのわが開催されるが、他大学のピア・サポーターと交流することで学べることがたくさんあることから、次回も是非参加したい。

◆企 画 名　ピア・コミュニティ　のぼり・フラッグの作成
日　　程　2020 年 2 月完成
場　　所　総合学生会館凜風館　1 階ピアエリア他（各コミュニティの活動時）
参加者数　10 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 5 名）
目　　的

・各コミュニティの活動の際に、のぼりを設置することで参加者への目印とするとともに、ピア・コミュニティの活動であることを一般学生に認識してもらう。
・学外での活動の際は、手持ちのフラッグを使用することで集団行動を行いやすくする。

内　　容

各コミュニティがそれぞれで活動を行うという性質上、それぞれの団体名は知られていても、それがピア・コミュニティの団体であるということが認知されていない現状がある。そこで、ピア・コミュニティののぼり・フラッグを作成し、各コミュニティの活動時に使用してもらうことによって、ピア・コミュニティとしての知名度の向上を期待する。また、企画場所の目印となることで、参加者にとって参加しやすい環境を整える。

＜作成までの流れ＞
①代表者会議を通じて、各コミュニティへ意見の募集
②それぞれのコミュニティで意見を集約し、代表者会議で報告
③報告された意見を参考に、発注する製品を決定
④制作会社へ見積依頼、発注
⑤2 月中旬納品

効　　果

・のぼりを立てることで、一目見てピア・コミュニティの活動であることが分かり、各コミュニティの団体名だけでなく、ピア・コミュニティとしてこれまで以上の広報効果が得られると思う。
・イベント時に集合写真等を撮影する際も、のぼり・フラッグとともに写ることで一体感が生まれた。

改 善 点

特になし

感　　想

・2 月 21 日（金）に実施された他大学交流会「Peer-Kan's」で始めてのぼりを使用したが、ピア・コミュニティメンバーの反応も良く、作成してよかったと感じた。他大学の参加者へ対しても、のぼりを目印にしてもらうことで、学内を迷わず移動してもらうことができたと思う。
・4 月以降、各コミュニティでそれぞれ活発に活動が行われるようになるため、積極的にのぼり・フラッグを使用してもらい、一般学生に、ピア・コミュニティといえばこの「のぼり」と認識してもらえればうれしい。

◆**企 画 名**　ピア・コミュニティ　ポロシャツ作成
日　　程　2020 年 3 月完成
場　　所　各コミュニティの活動時
参加者数　10 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 5 名）
目　　的

・統一したユニフォームを着用することで、一般学生に対してピア・コミュニティの活動であることをわかりやすく周知する。
・ピア・サポータ、研修生のピア・コミュニティへの帰属意識を向上させる。

内　　容

ピア・コミュニティでは、現在、統一ジャンパーを所有しているが、長そでのため秋・冬の活動時の着用に限定される。どのコミュニティも春・夏の活動が最も盛んであるため、この時期に着用できるポロシャツを作成することで、より活用できるユニフォームであると考える。

＜作成までの流れ＞

①代表者会議を通じて、各コミュニティへデザインについて提案
②それぞれのコミュニティで意見を集約し、代表者会議で報告
③報告された意見を参考にデザインを決定し、各コミュニティへ周知
④制作会社へ見積依頼、発注
⑤3 月中旬納品

効　　果

・イベントの際にピア・コミュニティメンバーが着用することで、参加者とスタッフの区別がつきやすく、運営がしやすくなる。
・春・夏の活動時にも着用できるユニフォームができたことで、よりピア・コミュニティをアピールする機会が増える。
・統一したユニフォームの着用によって一体感が生まれ、ピア・コミュニティへの帰属意識の向上が期待できる。

改 善 点

特になし

感　　想

・予定では、ピア・コミュニティメンバーがそろう 3 月 17 日（火）の 2020 スタートップミーティングの際に、ポロシャツのお披露目を行うことになっていたが、開催が中止になり、直接報告することができず残念だった。
・ピア・コミュニティとして初めてポロシャツを作成した。新たなユニフォームができてうれしく思うとともに、今後、このポロシャツがメンバーにとっても一般学生にとっても定着すればいいなと思う。

2.2.2　国際コミュニティ“ＫＵブリッジ”

■　ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ“KU ブリッジ”（以下、「KU ブリッジ」という）は、留学生の学生生活の充実を図るため、主に国際交流イベントを実施している。このイベントにより、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

■　所属人数

14 名　＊1 年次 2 名、2 年次 4 名、3 年次 5 名、4 年次 3 名（2020 年 3 月末現在）

■　ミーティングの概要

KU ブリッジ全体ミーティング 週 1 回、国際部ミーティング 月 1 回

この他、企画チームのミーティングを週 1 回、3 部署（デザイン部、渉外部、人事部）のミーティングを週 1 回程度行う場合もある。

■　ピア・コミュニティ内の連携について

企画は 3～4 人程度のグループで考え、実行・振り返りまで一貫して行っているため、他のグループの状況がわかるように、週に 1 回の全体ミーティング（以下、「MTG」という）で KU ブリッジ全員が必ず顔を合わせるようにしている。MTG の前半において各グループ 5 分程度で進行状況を報告したり、各グループが作成した資料など携帯やパソコンで誰でもいつでも確認できるようにすることで、情報共有を徹底している。また MTG 後半において各グループから提案のあった課題についてディスカッションをしたりワークを行うことで、KU ブリッジ全員のモチベーション向上とスキルアップを図っている。

■　ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。春と夏に行われるピア全体合宿や他コミュニティが実施している企画など関わる機会は多くあるが、主体的に参加するメンバーはほんの一握りなのが現状である。他コミュニティの学生と関わることのメリットを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

■　教職員との連携について

関西大学のグローバル化はまだ改善の余地があり、KU ブリッジと支援母体である国際部の連携を強化することで、学内での国際交流を活発化させることができると考えている。国際部の職員の方と関わる機会を得るため、昨年度に引き続き、毎月 1 回国際部職員と KU ブリッジ幹部との話し合いの場を設けた。国際交流の活性化や KU ブリッジが国際部へ求めていること、国際部が KU ブリッジに求めることについて意見交換をし、その結果、KU ブリッジと国際部の関係性がさらに密になった。今後も国際部との連携の重要性を認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

■　課題

KUブリッジをよりよくするには、全員が関西大学のグローバル化を促進するために今年1年KUブリッジとして何をしなくてはいけないかしっかりと目標を持ち、その上で企画の質とともに、一人ひとりの意識を向上させる必要があると感じ、サポートにまわることが多かった既存メンバーも自分の考えた企画を実施するなど、新しいことに取り組んだ。

弱みのひとつとして、既存メンバーと新メンバー間の引き継ぎが十分ではないことがあげられる。今後は、企画運営の流れのマニュアル化を行い、誰もが企画・運営を行える体制作りに取り組みたい。そして、メンバー間での情報共有の徹底を心掛け、同じ目標に向かって活動する団体を目指していきたい。また、メンバー間の関係を深めるために、食事会を定期的に行うなど交流する機会を増やしていきたい。

◆**企 画 名**　ようこそ関大 2019
日　　程　2019 年 4 月 7 日（日）
場　　所　100 周年記念会館
参加者数　88 名（ピア・サポータ 6 名、研修生 4 名、留学生会 4 名、留学生 74 名）
目　　的

・新入留学生のキャンパスライフが充実したものになるよう、アクティビティやランチタイムを通して新入留学生と上位年次留学生の交流の場を提供する。
・新入留学生に関西大学について知ってもらう機会を作る。
・KU ブリッジ、留学生会、校友会の存在を知ってもらい、今後の各種イベントに気軽に参加できるようアプローチする。

内　　容

9:00　会場設営
9:30　事前ミーティング
10:30　参加者受付
11:00　開会式
11:20　アイスブレイク
11:40　アクティビティ（関大クイズ）
12:00　軽食
12:30　参加者アンケート、記念撮影、閉会式
13:00　参加者をスプリングフェスティバルへ誘導
14:00　撤収作業
14:30　フィードバック、解散

効　　果

新入留学生には、校友会、留学生会、KU ブリッジの存在を知ってもらうことができ、上位年次留学生との交流の場になった。上位年次留学生には、新入留学生と知り合うきっかけを作り出せた。さらに、KU ブリッジの紹介を通して次の KU ブリッジのイベントへの参加を促すことができた。

改 善 点

・閉会式が終わるとイベント終了と認識し帰ってしまう参加者がいた。
　→閉会式を廃止して、スプリングフェスティバルに誘導する。
・関大クイズの際、正解が発表されてから参加者が回答を変更する身勝手な行動があった。
　→スタッフがより一層厳重にチェックする。
・司会の場所からステージ手前のチームが見えなかった。
　→全体が見やすい場所に司会者を配置する。
・関大クイズの問題の中に昨年度と同じ問題があった。
　→昨年度の問題を確認してから、問題を作る。
・参加者の遅刻について、何時まで参加を許可するのか曖昧だった。
　→事前に話し合って何時まで許可するのか決めておく。
・受付と会場の入口までの距離が遠く、参加者が迷っていた。
　→床に養生テープで会場入口までの矢印をつける。

感　　想

国際部の方や企画メンバーと何度も話し合い、リハーサルを行うことでイベントを事前にイメージできたので、当日想定外の問題が起きることはなかった。当日は、スタッフに指示を出すことの難しさを痛感したが、スタッフたちが臨機応変に対応してくれたので、みんなに助けてもらいながら企画を成功でき、安心した。

◆**企 画 名**　KU バザー
日　　程　2019 年 4 月 23 日（火）～4 月 24 日（水）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア
参加者数　28 名（ピア・サポータ 7 名、留学生 21 名）
目　　的

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨（使用・未使用は問わない）を中心とする物品を KU バザーの場で本学交換留学生･正規留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

内　　容

4 月 23 日（火）
10:40　会場設営（有鄰館から物品を運搬、陳列する。）
12:10　イベント開始
12:45　イベント終了、撤収作業（13:00 に撤収作業を開始する予定だったが、3 限目の時間に残れるスタッフがいなかったため早めに終了した。）
13:00　解散

4 月 24 日（水）
10:40　会場設営
12:10　イベント開始
12:45　イベント終了、撤収作業（参加者が少なかったため早くに撤収した。）
13:00　解散

効　　果

国際部からの案内メールで KU バザーの開催を知り、1 日目はより多くの留学生が KU バザーを活用してくれた。

改 善 点

・2 日目は参加者が一人だけだった。
　→2 日目にも新たに物品を足していることを告知する。
・開催前に Facabook での広報ができていなかった。
　→事前に細かく担当の割り振りを行い、誰が担当かをはっきりさせる。

感　　想

バザー当日は大きな問題なく円滑に進めることができた。また、1 日目は多くの留学生がバザーに来てくれ留学生にとって役立つイベントであると実感できた。しかし、寮から物品を回収するための事前準備や回収当日に問題点がいくつかあった。回収は主に寮で行っているが、今回は回収できた物品の量が少なかったので、今後物品回収方法について見直す必要があると感じた。

◆**企 画 名**　新緑ハイキング 2019 in 箕面

日　　程　2019 年 6 月 2 日(日)

場　　所　箕面大滝

参加者数　31 名（ピア・サポータ 4 名、研修生 9 名、一般学生 9 名、留学生 9 名）

目　　的

ハイキングする事で日本の自然を感じながら日本人学生と留学生の交流を促進する。また、日本の新緑の季節の美しさを楽しんでもらう。

内　　容

12:45 参加者受付開始
13:00 阪急関大前駅高架下にて挨拶及びフリートーク
14:30 阪急箕面駅到着
箕面駅近くでグループに分かれ、フォトスカベンジャーハントの説明を行った。
14:45 箕面駅から滝へ、グループごとに出発。
16:00 箕面大滝での記念撮影後、
参加者全員で箕面駅へ徒歩で移動。

17:00 箕面駅到着後、参加者解散。スタッフはフィードバックを行い、今後の企画で反省点を反映できるようにオンライン(OneDrive)上に記録した。 また、Facebook ページにイベントの様子をアップロードし、参加者への謝辞とした。

効　　果

・今回の企画はハイキングということで、常に体を動かしながら交流を行うことができ、参加者同士が自然な流れで会話を楽しむことができていた。

改 善 点

・時間が足りず、予定していたアイスブレイクができなかった。
→時間の尺に余裕を持たせる。
・参加者の中に企画当日のスケジュールが分からず、困っている人がいた。
→集合時に大まかにスケジュールについてアナウンスし、前もって知らせておく。

感　　想

今回のハイキング企画の最も特徴的な部分は、企画中の大部分において自由に会話を楽しむことができる点であり、参加者はグループのメンバーだけでなく、他のメンバーとも話すことができ、良い国際交流となったと思う。今後も、このハイキング企画は春学期の恒例企画として毎年実施する価値がある。

◆**企 画 名**　スポーツ大会 in 関大
日　　程　2019 年 7 月 13 日（土）
場　　所　第 4 学舎 3 号館　屋内グラウンド
参加者数　17 名（ピア・サポータ 2 名、研修生 3 名、一般学生 7 名、留学生 5 名）
目　　的

春から関西大学に入学し、新しい環境に慣れ始めてきた留学生と運動という共通の遊びを通じてさらに交流を深める。また、日本人学生も留学生と交流する機会を得ることで、さらなる国際交流の発展を形作る。

内　　容

14:40　全体ミーティング
15:10　参加者中央体育館前集合
15:20　アクティビティ開始
16:40　参加者解散、片付け
17:40　凜風館ピアエリアでスタッフはフィードバック

効　　果

留学生には、ドッチビー、気配切り、ドッチボールといった日本の遊びを知ってもらうとともに、アクティビティを通じてチームごとの仲間意識を強めることできた。また、一般学生も留学生と交流することで、親しんだ遊びでも違う見方を得る機会になった。

改 善 点

・計画時にアイスブレイクの内容を考えていなかったため、当日急遽準備することになった。
　→次回イベント以降は、必ず事前にアイスブレイクについて企画メンバーで話し合う。
・ドッチビーや気配切りのルール説明がしっかりできておらず、参加者がルールを理解できずに混乱していた。
　→参加者がルールを全く知らないという前提で準備し、スタッフ内でもルールの共有を徹底する。また、ルール説明をしているときの参加者の様子を見て、必要に応じて詳しい説明を加える。
・ゲームの内容についてチームごとにスタッフが説明するのか、全体で集合して説明するのか曖昧なまま開始してしまった。
　→スタッフ同士で進行についての情報共有を徹底しておく。
・事業計画書等の書類の提出が遅くなってしまった。
　→企画メンバーだけで書類の作成が難しい場合、他のスタッフにお願いして手伝ってもらう。

感　　想

当初の企画段階の予定では時間が大きく余ることが懸念されたが、その後の追加プランなどの対応によって、当日は時間通りにアクティビティを進めることができた。イベントを担当することが初めてで、指示の難しさなどを痛感したが、周りのサポートによって無事にイベントを終えることができよかった。

◆**企 画 名**　秋学期キャンパスツアー2019
日　　程　2019 年 9 月 14 日（土）
場　　所　関西大学千里山キャンパス
参加者数　122 名（ピア・サポータ 6 名、研修生 1 名、留学生 115 名）
目　　的

秋学期から関西大学で学ぶ交換留学生を対象にキャンパスツアーを行うことで、初めての大学への順応を促し、今後の充実した学生生活につなげる支援を目的とする。さらに、KU ブリッジの活動紹介も併せて行い、今後の開催を予定している企画イベントへの参加を呼び掛けることで、KU ブリッジの活動の発展に寄与する。

内　　容

9:30　当日スタッフ、第 2 学舎 A 棟 1 階にて集合。当日の動きについて最終確認。
　　留学生の到着が遅れていたため、この時間を利用して準備物の確認を行った。
10:30　予定より 30 分遅れて、A501、A503 にて生活オリエンテーション開始。
　　KU ブリッジの挨拶と紹介を行った。
10:40　事前にキャンパスツアーを行うルートの確認ができていなかったため、待ち時間に当日スタッフ全員でルートの確認を行った。
12:15　キャンパスツアー開始。(所要時間 1 時間)
13:15　キャンパスツアー終了後、図書館前にて記念撮影。
14:00　当日スタッフはフィードバックを行い、その後解散。

効　　果

・今回のキャンパスツアーでは、関西大学千里山キャンパス内の各学舎や施設の位置、利用方法について、学内を歩きながら紹介した。新入留学生が留学中に学内で利用可能なサービスを知ることで、関西大学での留学生活をより有意義なものとする手助けができた。
・KU ブリッジによる活動や今後開催予定のイベントを知ってもらうため、SNS 上の当団体アカウントへの登録を促進し、今後に繋がる留学生との関わりを持つことができた。

改 善 点

・オリエンテーションの中でキャンパスツアーを行うグループ分けをする予定だったが、急遽オリエンテーション終了後に教室の外でグループ分けを行った。想定と異なる対応が必要となり、スタッフ・留学生共にやや混乱があった。
　→オリエンテーションを行う DIASS（国際部学生スタッフ）との打ち合わせ等の場を設け、オリエンテーションからどのような流れでキャンパスツアーへ移るのか確認を行うとよい。
・留学生から部活やサークルについての質問を受けることが多かったが、どのように回答するべきか対策を取っておらず、対応が難しかった。
　→現在企画中の KUclubs が始動すれば、そちらを参加者に案内することで部活やサークルについて紹介することができる。

感　　想

今回はキャンパスツアーに初めて関わるメンバーが多く、100 名を超える留学生を迎えての実施には不安があった。そのため台本の読み合わせを念入りに行い、疑問や不安点を事前に解消するよう努めた。当日は全スタッフが案内役としての役割を果たし、留学生からの質問や急な変更点にも臨機応変に対応した。キャンパスツアーは毎学期多くの留学生に KU ブリッジの存在を知ってもらえる場であるので、この企画をより有意義なものに改善することで、留学生に KU ブリッジを頼れる存在として認識してもらえるよう努力したい。

◆**企 画 名**　KU バザー

日　　程　2019 年 10 月 8 日（火）、10 月 9 日（水）

場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア

参加者数　8 日：57 名（ピア・サポータ 7 名、留学生 50 名）

9 日：54 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 1 名、留学生 48 名）

目　　的

本学学生から提供された、家に眠っている日用雑貨（使用・未使用は問わない）を中心とする物品を KU バザーの場で本学交換留学生・正規留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

内　　容

10 月 8 日（火）、10 月 9 日（水）とも以下のスケジュールにて実施した。

12:10　イベント開始

スタッフが随時巡回し、物品の説明などを参加者に行った。また、イベントの様子を写真に収めた。

13:00　イベント終了、撤収作業開始

Facebook ページにイベントの様子をアップロードし、参加者への謝辞とした。

効　　果

・Facebook、インフォメーションシステムでの広報効果があり、多くの留学生に KU バザーに参加してもらい物品を提供することができた。

・今までのフィードバックを踏まえ事前に物品の仕分けをして準備していたため、出品する物品数に過不足なく、綺麗な陳列を心がけることで参加者が物品を選びやすい環境を整えた。バザー2 日目も多くの留学生に様々な物品を持ち帰ってもらえた。

改 善 点

・1 日目に Facebook への写真掲載に関するアナウンスをしていなかった。

→顔が写った写真を Facebook に載せてもいいかという内容のポスターを作り、受付と同時にアナウンスする。

・留学生が手にたくさん荷物を持っていたので、Facebook のいいねを押してもらうのが難しかった。

→受付時にカードリーダー担当と Facebook の説明担当の二手に分かれて、カードリーダー後に Facebook のいいねをしてもらうように促す。

感　　想

前回のバザーでは物品が足りなかったことの反省を生かし、多くの物品を集めることができた。バザー当日は大きな問題なく円滑に進めることができ、両日とも多くの留学生がバザーに来てくれたため、留学生にとって役立つイベントであると実感できた。

今回の KU バザーは、例年よりも沢山の参加者を迎えることができ KU バザーの目的を果たすと同時に、KU ブリッジ自体のアピールとしても効果があったと感じる。KU バザーは新学期の序盤に行われる企画の 1 つなので、ここで多くの外国人留学生に参加してもらうことで、その後の企画の参加率向上にも繋げていきたい。

◆**企 画 名**　KUBridge tour in Rokko ~Are you ready to enjoy?~

日　　程　2019 年 10 月 14 日（月）

場　　所　六甲山カンツリーハウス

参加者数　16 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 2 名、一般学生 3 名、留学生 6 名）

目　　的

イベントを通じて外国人留学生と日本人学生の円滑な交流を促すことを目的とする。また、異文化の人々が一緒に活動することで、様々な文化を理解することを目的とする。

内　　容

8:45　スタッフは関大前駅に集合し、最終打ち合わせ。
9:00　関大前駅にて参加者の受付を開始。
9:31　グループに分かれた後、関大前駅を出発。
10:35　予定よりも 15 分程遅れて六甲カンツリーハウスに到着。
11:00　フォレストアドベンチャー開始。
13:00　フォレストアドベンチャー終了後、BBQ 場へ移動。
13:30　BBQ 開始。
15:56　BBQ 終了後、六甲カンツリーハウスを出発。
17:00　阪急六甲駅に到着後、改札前にて参加者解散。
18:00　スタッフはその場でフィードバックを行い、その後解散。

効　　果

・参加者の多くがお互いにコミュニケーションを取っていたため、今回参加した学生同士が今後、交流するきっかけを作ることができた。
・体を動かすアクティビティーを共に行ったことが学生同士の交流の促進に繋がった。

改 善 点

・フォレストアドベンチャーの際、参加者の多くが汚れても良い服を持ってきていなかった。
　→広報ポスターや案内メールの段階で、必要なものを強調して知らせておく。
・事前書類を作成する段階で役割分担ができておらず、1 人に負担が偏ってしまった。
　→事前に役割を決め、担当者同士連絡をこまめに取り確認し合う。
・六甲山カンツリーハウスに向かうために六甲ケーブルを利用したが、チケットの種類が多く、どのチケットを利用するか決めていなかったので乗車の際にもたついた。
　→下見の段階でどのチケットを利用するべきか決める。
・移動の際、どこへ向かうのかを全体に伝えることができていなかったため、スムーズに移動ができずバスの乗車が遅れた。
　→準備段階でアナウンス用原稿を準備しておき、進行係を決めておく。

感　　想

今回の企画は、外国人留学生の当日キャンセルがあったため、グループ分けや集金において変更点があった。しかし、怪我や遅刻など大きなトラブルはなかったため、無事に全てのイベントを終えることができた。計画通りに進まなかった際は不安に感じたが、解散時に多くの参加者が満足したと言ってくれたこともあり、達成感があった。今回は少人数で行ったことにより、参加者だけでなく、スタッフを含む全員が交流できていた。参加者人数は予定よりも少なかったが、少人数で行う企画の良い点に気づくことができた。

◆**企 画 名**　和菓子作り～和の心を体感～
日　　程　2019 年 11 月 17 日（日）
場　　所　総合学生会館凜風館 4 階　ミーティングルーム
参加者数　26 名（ピア・サポータ 3 名、研修生 6 名、留学生 13 名、一般学生 4 名）
目　　的

日本人学生と留学生が一緒になって和菓子を作ることにより交流を深め、日本文化に共に触れ合うことでより日本の魅力を体感することを目的とする。また、和菓子作りというめったに体験できない貴重な活動を通してより仲を深めることを目的とする。

内　　容

12:30　スタッフ集合、設営行う。
13:00　参加者受付開始。
13:45　挨拶とアイスブレイクを行う。
　　講師は和菓子作りの準備を開始。
14:15　お菓子作り開始。
15:20　写真撮影とアンケート記入。
15:40　参加者解散。
　　スタッフはフィードバックと施設の原状復帰を行う。
16:10　スタッフ解散。

効　　果

和菓子作りの難易度が高くなかったため、留学生にとって楽しく取り組めるものとなった。最初に行ったアイスブレイクの伝言ジェスチャーゲームでは、数人で協力して回答するものだったため、日本人学生と留学生が仲を深める最初のきっかけとなった。

改 善 点

・スタッフミーティングの時間が短かく、スタッフ一人ひとりの疑問点などに対応することができなかったため、講師の方との待ち合わせについてや、アイスブレイクの終わり方、解散の時間が曖昧であった。
　→イベント当日に時間を余分にとり打ち合わせが行えるようにする。また、イベント前のミーティングで当日の流れを予行練習しておく。
・和菓子を食べながら交流する予定だったが、持ち帰りの袋を先に配ってしまったため、誰も和菓子を食べることなく十分な交流ができなかった。
　→その場で一緒に和菓子を味わい交流してもらうために、お茶などを用意しておく。
・人数確認を怠ったため、予定以上のスタッフが和菓子作りに急遽参加することになった。
　→講師の方へ人数報告等の最終確認の連絡を必ず行う。

感　　想

参加者の募集期間が短かったわりに人数が集まったことから、留学生の日本の文化を体験することに対する関心は高いと思われる。楽しそうに作成している反面、真剣に取り組んでいる姿を見て、日本の文化のすばらしさを改めて留学生に教えてもらうこともできた。これからも定期的に日本文化を体験してもらうイベントを開催して、私たち日本人が誇りに思う日本文化に対する理解を深めてもらう機会を提供出来たら良いと感じた。

◆**企 画 名**　クリスマスを彩ろう　クリスマスリース作り

日　　程　2019 年 12 月 21 日（土）

場　　所　総合学生会館凜風館 4 階　小ホール

参加者数　13 名（ピア・サポータ 2 名、研修生 3 名、一般学生 1 名、留学生 7 名）

目　　的

クリスマスリースをつくることで、留学生と日本人学生の交流を深め、新しい友人を作る場を提供すること。
また、参加者にとってクリスマスの思い出に残るイベントにすること。

内　　容

13:00　スタッフ最終打ち合わせ
13:10　会場設営・リース作りの用意
14:00　参加者受付
14:30　自己紹介
　　アイスブレイク
14:45　クリスマスリースづくりの説明
　　グループに分かれ作成開始
15:45　記念撮影・アンケート記入
16:00　参加者解散・片付け
16:30　フィードバック
17:00　スタッフ解散

効　　果

クリスマスリースの装飾を参加者にオリジナルで作ってもらうことで、グループで交流しながら、リースを作ることができた。

改 善 点

・ポスターと周知文の完成が予定より遅くなってしまい、応募受付期間が 3 日間しかなかった。結果的に参加者が予想より少なく、8 名しか集まらなかった。
　→イベント企画の各段階で提出書類をまとめたチェックリストを活用し、担当ごとに日時や場所、募集人数などの事項を重ねて確認しておく。
・参加費の領収書を事前に作っていなかった。
　→準備物作成の役割分担をしたが、きちんと行えていなかった。企画班が作業を分担する際、同時に締め切りを設定する。なお、リーダーは常に企画の進捗状況を把握し、各資料の作成を促す。
・アイスブレイクの時間が短かった。
　→事前に企画ミーティングでリハーサルを行う。
・机の数の確認を事前に行えていなかった。
　→机と椅子の配置図を作る。
・参加者の漢字名が分かりづらかった。
　→応募する際に、ローマ字またはカタカナなどで入力してもらう。

感　　想

今回のクリスマスイベントでは、日本人学生と留学生が体験しやすく楽しめるものだった。企画班のメンバーと協力してイベントを実施することができ、参加者は募集していたよりも少なかったが、参加者のグループを減らすなどして、より多くの方と交流してもらうことができた。これからも楽しく参加できるイベントを企画していきたい。

2.2.3　ピア・スポーツコミュニティ（ＰＳＣ）

■ ピア・コミュニティの趣旨

テーマは、関大生の「絆」。“スポーツ”をキーワードにして、関西大学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進することを目的に活動する。そのため、在学生や卒業生への応援活動を行うことで、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、人との繋がりを築き、より充実した学生生活を送ることができるようなサポート活動を行っている。

■ 所属人数

1名　＊1年次1名、2年次0名、3年次0名、4年次0名（2020年3月末現在）

■ ミーティングの概要

不定期で行っている。

■ ピア・コミュニティ内の連携について

2015年度からピア・サポータが不在となり、活動ができていない状況であったが、今年度新メンバーが入会し、活動を再開することができた。しかし、新メンバーのみでコミュニティを運営することは難しいため、他のコミュニティのメンバーのサポートにより、ミーティングや活動を行っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

普段から他のコミュニティのメンバーがサポートしてくれていることにより、全体の状況を知ることができている。またPSCとしても、ピア・コミュニティメンバーで行うスポーツ大会を企画するなど、つながりを深められるような取り組みを実施した。

■ 教職員との連携について

スポーツ振興グループが支援母体である。活動の再開に伴い、企画に関する様々なアドバイスや、スポーツ関係の学内団体との顔つなぎをしていただくなど、多くの支援をいただいている。

■ 課　題

今後、活動を発展・安定させるためには、メンバーの募集が最優先である。スポーツに興味を持つ学生に、スポーツ行事を行う運営側の楽しさについても感じてもらうことで、メンバーの増加につなげていきたい。

◆**企 画 名**　PSC スポーツ大会

日　　程　2019 年 6 月 29 日（土）

場　　所　第 4 学舎　3 号館　屋内グラウンド

参加者数　18 名（ピア・サポータ 15 名、研修生 3 名）

目　　的

PSC 活動再開後初のイベントとして、再開を周知するとともに、スポーツを通してピア・コミュニティ内の交流を深めるため。

内　　容

○アイスブレイク

二人一組で自己紹介をした後、ラジオ体操を行った。また、参加者がけがをしないよう柔軟運動も行った。

○ドッジボール

王様ドッジボール（各チームで決めた一人の王様が当てられると試合終了）を行った。途中でボールを一個増やすなどして、参加者が常に楽しめるようにオリジナルルールを追加した。

効　　果

ピア・コミュニティ内のコミュニケーションが深まったと共に、PSC 活動再開の周知をすることができた。また、活動中は雰囲気よく、みんなが仲良く話していた。その場で考えてルールを追加したりして、盛り上がったと思われる。

改 善 点

当日の進行が少し円滑にできなかったので、事前にもっと会議を行い段取り良く進むように話し合う。

感　　想

休憩時間を多く取って熱中症対策をしたこともあり、誰ひとり熱中症にならず実施することができた。初めてのイベントであったので、緊張して上手くできるか不安だったが、みんなが楽しいと言ってくれて嬉しかった。スポーツはみんなが共通して楽しめるものなので、このような企画をして良かったと感じた。今後は一般学生を交えたりして、もっと大きな規模で実施したいと思う。

◆企 画 名　運動をもっと身近に！AT ルーム学生トレーナーと学生 S&C による講習会に行こう！

日　　程　2020 年 1 月 25 日（土）

場　　所　中央体育館トレーニングルーム前

参加者数　18 名（ピア・サポータ 15 名、研修生 3 名）

目　　的

一般学生に運動することの楽しさを知ってもらう。
日常生活から食事に気をつけたり、運動をするなど体のケアをしながら健康に学生生活を過ごしてもらう。体育会との交流によって大学への帰属意識向上や一体感を感じてもらう。

内　　容

1 月 25 日（土）に、関西大学・武庫川女子大学大学間連携事業女子バレーボール部交流戦の開催にあわせて実施される「AT ルーム学生トレーナーと学生 S&C による講習会」のサポートを行う。

この講習会は、「美しい体を手に入れよう！」をコンセプトに開催され、運動が好きな学生はもちろん、ダイエットに興味がある学生などにも広く周知し、簡単にできる運動やストレッチ

効　　果

ピア・コミュニティ内のコミュニケーションが深まったと共に、PSC 活動再開の周知をすることができた。また、活動中は雰囲気よく、みんなが仲良く話していた。その場で考えてルールを追加したりして、盛り上がったと思われる。

改 善 点

当日の進行が少し円滑にできなかったので、事前にもっと会議を行い段取り良く進むように話し合う。

感　　想

休憩時間を多く取って熱中症対策をしたこともあり、誰ひとり熱中症にならず実施することができた。初めてのイベントであったので、緊張して上手くできるか不安だったが、みんなが楽しいと言ってくれて嬉しかった。スポーツはみんなが共通して楽しめるものなので、このような企画をして良かったと感じた。今後は一般学生を交えたりして、もっと大きな規模で実施したいと思う。

2.2.4　ＫＵサポートプランナー（ＫＵＳＰ）

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポートプランナーは「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティ。関大生の団体及び個人のアイデア企画を募集し、共同で立案から実施まで行うことや学生の視点を生かした関大生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、関西大学の多くの学生のキャンパスライフをより良いものにすることを目指している。

■ 所属人数

８名　＊1 年次 2 名、2 年次 2 名、3 年次 2 名、4 年次 2 名（2020 年 3 月末現在）

■ ミーテイングの概要

原則 1 週間に 1 回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

連絡や情報の共有については、メーリングリストと SNS（LINE）を活用することで、会議やその他の連絡が行われていた。特に SNS（LINE）は、メンバー間の交流を促進するためにも活用した。改善すべき点として、メンバー全員が参加できる会議の日程、時間がないことである。履修を決定する前から、早い段階で日程を決定し、できる限り全員が会議に出られるように努力すると共に、会議に参加できなかったメンバーへのフォローが求められる。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの方に企画に参加してもらうことが多くあった。しかし、ピアエリア等で他コミュニティのメンバーと交流するメンバーがいる一方で、普段はピアエリアにいないメンバーについては、他コミュニティのメンバーと交流がないメンバーもいた。個々のメンバーの交流を増やすことで、コミュニティ間の連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体である。企画実施前には特に、密なコミュニケーションが取れていた。企画の募集について多くの支援を得られたことで、一般学生の目に多く触れることができたため、企画に多くの方に参加してもらうことができた。また、企画に関する KUSP の運営についてもアドバイスをいただいたことで広い視野で考え、事前にリスクを減らす対策を考えることができた。

■ 課題

昨年度からの課題の 1 つであったメンバーの少なさについては、今年度も同様に課題として残っている。しかしながら、今年度は年間を通して来年度以降の募集方法や広報について意見を出し、今後改善策を実行していく方向となっており改善を見込んでいる。また、今年度は、企画者との打ち合わせが十分でなかったことが原因で、中止することに至った企画があった。そのため、今後は企画者との打ち合わせを密にするよう改善したい。

◆**企 画 名**　「大学生活の疑問を解決しませんか？」第二回ピア・カフェ

日　　程　2019 年 4 月 26 日（金）

場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア

参加者数　9 名（ピア・サポータ 5 名、一般学生 4 名）

目　　的

・本企画は、今後の企画や活動の為の学生ニーズの収集を目的として実施するものである。
・新入生をメインターゲットとし、大学生活の不安や疑問のヒアリングを実施し、今後の活動の参考にする。

内　　容

凜風館 1 階のピアエリアを貸し切り、お昼休憩の時間を利用して昼食を食べながら各ピア・コミュニティの活動や企画を紹介すると共に、参加者同士やピア・サポータとの交流を通してピアの概念を知っていただきながら大学生活での不安や疑問のヒアリングを実施した。

効　　果

・参加者同士や KUSP メンバーとの交流が活発に行われ、大学生活について日々感じていることを直接参加者から聞き出すことができた。
・本企画の実施を通して、KUSP をはじめピア・コミュニティの活動について参加者に知ってもらえた。
・次回以降も参加したいという意見が多かった。

改 善 点

・新入生をメインターゲットとし、新入生を中心に告知などを行ったが、新入生と 2 年次生との参加者数が同数であったため、企画の目的と少しずれができてしまった。
・参加者同士の席が少し遠く、もう少し距離を近くして欲しいとの意見があったため、席配置の工夫が必要である。

感　　想

・参加者同士の交流が盛り上がり、参加者全員の満足度も高く、企画を楽しんでもらえた。
・今回、直接参加者からヒアリングした内容をふまえて、KUSP 内で相談し、今後の活動に活かしていきたい。

◆**企 画 名**　プレゼン力を向上させたいあなたに！！現役関大生が教えるプレゼン教室

日　　程　2019 年 6 月 28 日（金）

場　　所　誠之館 2 号館 1 階　多目的会議室

参加者数　14 名（ピア・サポータ 2 名、研修生 2 名、一般学生 10 名）

目　　的

大学生活の中でプレゼンをする機会は多くある。特に、学期末は授業などでプレゼン発表の機会が多い時期である。本企画はこのような機会に、より効果的なプレゼンをするための一助となることを目的とする。

内　　容

誠之館 2 号館 1 階多目的会議室を貸し切り、現役関大生であるピア・サポータ越智崚太が相手に伝わりやすい発表の仕方、わかりやすいスライドのデザイン、人前で緊張しないコツをレクチャーする。

効　　果

・参加者からの満足度は高く、今後プレゼンの機会がある学生にとって役立つものであった。
・アンケートを通して授業に役立つスキルを身につける企画のニーズが高いことが分かり、今後の企画のヒントを得ることができた。

改 善 点

・プロジェクター等の機材の使い方を理解しておらず、当日少し戸惑ってしまったため、事前にリハーサルを行うなど一通りの作業を確認しておくことが必要である。
・参加者が気軽に質問しやすい雰囲気作りとしてアイスブレイクを実施してみても良かかった。

感　　想

・今回の企画は 1、2 年次生の参加を主な対象としていたが、3 年次生の参加も多かったため、想定していたよりも広いニーズがあったと考えられる。
・企画の満足度について、アンケートでは満足であると回答した方が多く、次回も参加したいとの声も多くあったため、今後もこのような企画の実施を検討したい。

2.2.5　ＫＵコアラ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU コアラは、関西大学の学生の図書館利用促進を目指すため、学生の視点から、図書館での特集本展示や講習会といった企画を行うコミュニティである。主な活動は、開催時期に合ったテーマの特集本展示や、講演会の実施・運営である。

■ 所属人数

23 名　＊1 年次 3 名、2 年次 5 名、3 年次 12 名、4 年次 3 名（2020 年 3 月末現在）

■ ミーテイングの概要

定例会議　同一内容で週 2 回

■ ピア・コミュニティ内の連携

定例会議時に各企画の進行状況や問題点を共有し合い、全サポータで現在進行中の企画の状況を理解できるように心がけている。また、各自で記録を残しているだけでは、情報の非対称性が問題となる可能性があるので、メーリングリストのアプリケーションを利用することで、最低限の情報の共有を行っている。その他にも、クラウドサービスを利用することによって、先輩方が残してくれた資料を参照することができるようにしている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

今年度は特に、他のコミュニティと多く交流することができた。具体的には、9 月に行った上半期活動報告会では、今まであまり会うことのなかった他のコミュニティのメンバーと関わることができた。他のコミュニティと関わりができたことで、様々な刺激を受け、ピア・コミュニティ全体にいい影響がみられるように感じる。

■ 教職員との連携について

図書館事務室が支援母体であり、活動予定があれば、逐一担当者がメールで連絡を取ることになっている。その他にも、定例会議後には議事録を作成し、情報共有を行っている。

■ 課題

昨年度に続きピア・コミュニティ合同新歓を行ったが、あまり効果的な広報を行うことができたかったように感じる。次年度は、さらに関大生に KU コアラひいてはピア・コミュニティの周知につながるような広報活動を展開していきたいと考えている。また、新たに入会したピア・サポータへの情報共有や、企画の進め方などの手順の引き継ぎをしっかり行い、課題の解決策の検討、活動規模の拡大へとつなげていきたい。

◆**企 画 名**　集え本好き!読書好き交流会 in りんぷう

日　　程　2019 年 5 月 16 日（木）

場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア

参加者数　18 名（ピア・サポータ 8 名、研修生 4 名、一般学生 6 名）

目　　的

学年、学部を問わず「読書」という共通の趣味を通し、参加者同士がコミュニケーションをとることで、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とする。
この交流会を通して、本への興味を深め、図書館の利用を促進する。

内　　容

・自己紹介
・アイスブレイク(一筆書きゲーム、漢字ゲーム)
・おすすめ本紹介

効　　果

アンケートの結果より､参加者が企画に参加しようとしたきっかけで多かった答えが｢内容に興味があったため」であり、その中でも特に「人との交流」を期待した参加者が多く、自由記述部分では｢アイスブレイクがよかった」と回答してくれた参加者もいたことから、アイスブレイクの内容が効果的であったと感じた。
おすすめ本紹介では、グループごとで紹介したおすすめ本に対して、参加者らが自由に意見交換などを行い、交流が盛んであった。また、本の紹介や意見の交換時間は企画側で設定したが、進行を参加者側に任せることで、参加者も気軽に自由に紹介、意見交換ができたといえる。アンケートの「この企画によって、新しい本のジャンルに挑戦してみようと思いましたか」という質問に対し､「新しい本のジャンルに挑戦したい」と答えた人が多く、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場となった。

改 善 点

アンケートの結果より企画の実施時間の点について､参加者の過半数は「ちょうどよい」と回答したが「短い」という回答もあった。今回の主な企画内容は「おすすめ本紹介」であるのに対しアイスブレイクに時間がかかり、おすすめ本紹介にあまり時間を取れなかった。今後イベント型の企画を行う際は、より厳密な時間設定を行い、また何らかのトラブルが発生した場合のことも考慮しながら企画を行っていきたい。
企画計画段階から企画当日まで期間があったが、準備にとりかかる時期が企画当日直前になり、急ぎで準備をしてしまった。その結果台本作りが企画当日の前日になりリハーサルができず、当日の司会進行が上手くいかなかった。特にアイスブレイクの一筆書きゲームに時間がかかり、2 つ目のアイスブレイクは当初企画していたものから漢字ゲームに変更となり、その際漢字ゲーム用の台本が無く、ゲーム説明、進行に戸惑うことがあった。次回から、企画を行う際は、計画段階から、どの期間までに何を準備するかなど予定を綿密に決定していくようにしたい。

感　　想

今回初めて企画計画・実行側の立場になり、企画書作成、図書館事務室担当者の方へのメール送信、報告書作成、当日の司会進行など今まで経験したことがない、慣れないことが多く、無事に企画を終わらせられるか不安であった。しかし参加者に満足してもらうという結果を得ることができ、やりきることができた。当日に失敗した点や計画や準備段階での反省点も見つかり、今後行う企画に生かし、さらに良い画期的な企画を行いたいと思った。

◆**企 画 名**　特集本展示　第１回「関大出身者の著書」
日　　程　2019 年 6 月 18 日（火）～7 月 2 日（火）
場　　所　関西大学総合図書館 2 階　開架閲覧室
参加者数　21 名（ピア・サポータ 16 名、研修生 5 名）
目　　的

関大出身者の本を紹介することで、卒業生の活躍を知ってもらい、大学への帰属意識を高める。それとともに、読書への関心を高め、図書館のさらなる利用促進へと繋げる。

内　　容

・スケジュール
　6 月 4 日（火）14:40～16:10　本の抜き取り作業
　6 月 18 日（火）14:40～16:50　特集本の搬入作業
　7 月 2 日（火）14:40～16:50　特集本の搬出作業
・特集本を告知するためのポスターを作成し、以下の 3 か所に貼る。
　①ラーニングコモンズのコアラエリア
　②総合図書館　1～2 階間の踊り場にある掲示板
　③凜風館 1 階　掲示板
・前年度に実施した第 2 回特集本展示「旅行」について紹介するコアラ通信を作成し、特集本展示と並行して設置および配布する。
・特集本を展示する場所に、画用紙にシールを貼る形式のアンケートを設置し、図書館利用者に回答していただく。

効　　果

今回の特集本展示の期間中では、18 冊中 9 冊が貸し出された。アンケートの結果では、関大出身者の著書に興味が湧いたという意見が全体の 80%を占め、特集本展示の目的は一定以上果たせたと考えられる。

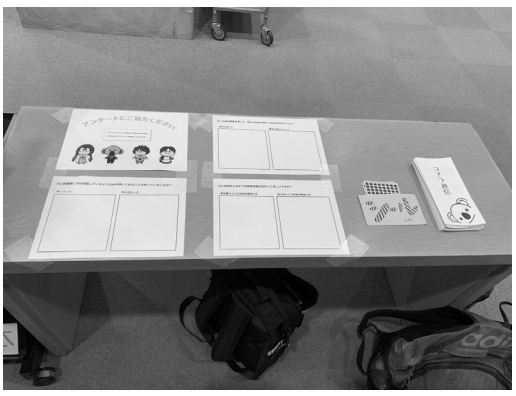
改 善 点

・展示期間が短かったことが、それぞれの本の貸出回数が 1 回にとどまった原因だと考えられるので、次回の展示は今回の展示よりも長期間に設定すべきと考えられる。
・スポーツ選手の著書の貸出回数が伸びなかったため、次回の展示ではスポーツ関連の POP や飾り付けをするなどの工夫をしたい。
・コアラ通信の配布数が伸びなかったことから、次回以降の特集本展示ではコアラ通信をより手に取りやすくするセッティングを心掛けたい。

感　　想

今回はこの企画に関わったメンバーが多く、一人当たりの仕事の負担が軽かったため、企画を滞りなく進行できた点はよかった。

しかし、選書された本のテーマおよび貸出回数にばらつきが見られた。貸出回数が 0 回の図書があったことは残念である。今回伸びの悪かったスポーツ関連の本は、そのスポーツのシーズン中に特集することで貸出回数の増加が期待できると考えたため、今後スポーツをテーマとした特集本展示の実施を検討したい。



◆**企 画 名**　第 42 回関西大学統一学園祭　模擬店企画～注文の多い料理店～

日　　程　2019 年 11 月 3 日（日）～11 月 4 日（月）

場　　所　関西大学　千里山キャンパス

参加者数　24 名（ピア・サポータ 19 名、研修生 5 名）

目　　的

大学内外から様々な人が集う学園祭というイベントを通して、ピア・コミュニティ並びに KU コアラの知名度を上げること。

内　　容

第 42 回関西大学統一学園祭に模擬店を出店する。

模擬店のメニューは、「ミネストローネ」。宮沢賢治『注文の多い料理店』をモチーフにしており、より多くの人の目に留まり、作品自体にも興味を持ってもらえるように工夫を凝らしている。

効　　果

・準備分が完売し、味も大変好評だった。
・模擬店に「KU コアラって何？」というポスターを掲示し、多くの人に読んでもらえた。学内外通して多くの人に KU コアラの活動を知ってもらうことができ、以前より知名度が上がった。
・メニューのモチーフにした、宮沢賢治『注文の多い料理店』に興味をもってもらうこともできた。

改 善 点

・学園祭実行委員会への模擬店の応募締切は 9 月末日であるが、第 1 回模擬店連絡会議は 8 月末に行われている点や申請後の返答に時間を要する点を考慮し、早めの申請を心がけるべきである。
・今回の様な再現メニューの場合は、メニュー選定に十分な時間を割くべきである。また、メニュー選定の際には、「わかりやすさ」を重視するべきだと感じた。「山猫の逆襲スープ」という名前自体はとても面白く興味を引くものであるが、一目見たときに一体何かが上手く伝わらなかった。
・今回の企画を機に KU コアラ公式 LINE を作成したが、学園祭での新たな登録者は 0 人であった。登録者を増やすことで、PR 活動や企画の宣伝を効果的に行うことができるため、今後も地道に増やしていく必要があると感じた。

感　　想

KU コアラの普段の活動において、PR 活動をする機会がほとんどないため、多くの人が集う学園祭というイベントを通して発信できたことはとても意味のあることだと感じた。 ただ、上記でも述べたように、学園祭ではじっくりメニュー説明を読んでもらえる訳ではないため、「わかりやすさ」を重視する必要があり、コストや模擬店のルールといった制約の下でのメニュー選定には十分に時間を割くべきだと思う。

また、準備には時間と協力が不可欠であり、より多くのメンバーに協力してもらうためにスケジューリングをしっかり行い、事前に声掛けを行うことの重要性を改めて感じた。

現段階ではまだまだ知名度は低いが、ピア・コミュニティ KU コアラの存在や活動内容を知ってもらえれば、一緒に活動したいと感じる学生は必ず出てくるはずである。もっとピアの輪を広げていくためにも今回のような PR 活動を積極的に行っていくべきだと強く感じた。

◆**企 画 名**　古本交換市
日　　程　2019 年 12 月 20 日（金）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　学生ラウンジ　大型モニター前
参加者数　34 名（ピア・サポータ 11 名、研修生 3 名、学生スタッフ 6 名、一般学生 14 名）
目　　的

・ピア・コミュニティとボランティアセンター学生スタッフの相互理解を深めることで、これからこの 2 つの団体が協力しあえる、先駆けとなるような企画を目指す。
・学内で本に触れる機会を増やすことで、読書へ興味を持つあるいは深めてもらい、さらなる図書館の利用促進につなげる。

内　　容

当日のスケジュール
10:30　設営・準備
12:10　古本交換市開始
18:00　撤収
当日参加者に持ってきてもらったいらなくなった本と、事前に募集し用意しておいた本の中から気になる本を交換してもらう。交換する本には元の持ち主にメッセージをしおりに書いてもらい、文面上で交流を図る。

効　　果

・当企画の特徴である、しおりを書いてもらい参加者同士が文面上の交流を図るという目的については、改善の余地はあるがある程度の成果が得られた。
・アンケートによると、今回の企画の参加者の満足度は、7 名が「大変満足」3 名が「ある程度満足」という回答で、全体としてみると参加者が満足する企画であった。また、次回も参加したいという声も多かった。

改 善 点

・初めて実施する企画であるということもあり、準備段階での企画当日の見通しが甘く、交換市を上手く成立させるうえで必要なもの（メッセージカードや thank you カード等）の用意が遅れてしまった。新たな企画を行う際は綿密に当日の見通しを立てておく必要がある。
・初めて異なる組織と合同企画を行ったが、会議日程の調整などあらゆる場面で想定以上の時間がかかり、結果として、広報など時間をとるべきところに時間を割当てられなかった。次回から、あらかじめお互いの役割分担をはっきりと決めておくことや、それぞれから少人数を出して会議を行い全体に情報を行き渡らせることを徹底することで、時間を効率よく使っていきたい。
・アンケートの回答の中に、本の種類が少なかったという意見があった。今後同じ企画を行う際は、本の募集期間を長く設けることや、例えばサスペンスのように内容を限定した交換市を行うことも検討したい。

感　　想

・初めての企画、初めての合同企画と初めて尽くしの企画だったので、手間取ることが多く大きな不安を感じたが、結果として実施してよかったと感じた。今回は、企画立案時に大きく分けて 2 つの案が出、片方を採用することとなったが、次回することがあればもう一方の企画も挑戦してみたい。
・もう少し KU コアラ内での役割の分担がうまくできるように気を付けたい。

2.2.6　ＫＵサポーターズ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポーターズは、“仲間同士の助け合い”をキーワードに、学生による学生のための学生相談を実施している。大学生活における些細な悩みや問題について誰かに話を聞いてもらいたい時や、悩みがあるけれど誰に相談してよいかわからないという時に、学生相談室と連携してサポートを行っている。また、年に数回講演会やワークショップなども開催している。

■ 所属人数

1 名　＊1 年次 0 名、2 年次 0 名、3 年次 0 名、4 年次 1 名（2020 年 3 月末現在）

■ KU サポーターズの現状

2019 年度に入り、ピア・サポータの在籍者数が 1 名となり、コミュニティの運営、活動を行うことが難しい状況となった。背景には、相談件数の減少や、それに伴うピア・サポータの減少、他のコミュニティとの活動内容の重複等、様々な問題があった。

支援部署や他コミュニティとの話し合いの中で、今後はピア・コミュニティ全体として取り組む一事業として、相談事業を運営することが検討されている。

■ 課　題

これまでの KU サポーターズでの相談事業は、相談室を設け対面で相談を受ける形式であったが、2020 年度以降の新たな相談事業は学生が気軽に立ち寄れる「案内所」「カフェ」のような位置づけになる予定である。ピア・コミュニティメンバーが活動しやすいよう、時代に沿ったより柔軟な相談事業の体制を構築してほしい。

課題としては、ピア・コミュニティ全体が関わる事業として、①ピア・サポート研修への「相談対応」プログラムの追加、②特定のメンバーに負担が偏らない体制の整備、③ピア・コミュニティ加入希望者への相談事業に関するガイダンスの設定、等が考えられる。

2.2.7　ぴあかんず

■ ピア・コミュニティの趣旨

ぴあかんずは、知られていない関大生の苦労や努力などのドラマを発掘して、SNS 等の web 媒体を通して伝えていくことで、関西大学への関心を深めてもらうことを目指している。また、その姿を見て学生の意欲を促進させることにつなげる。

■ 所属人数

0 名　＊1 年次 0 名、2 年次 0 名、3 年次 0 名、4 年次 0 名（2020 年 3 月末現在）

専属は置かず、各コミュニティに 1 名の担当者を置く

■ ミーティングの概要

不定期で行っている。

■ ピア・コミュニティ内の連携について

昨年度ぴあかんずの活動を再開させるために集まったメンバーが全員卒業したことから、新たに各コミュニティから広報担当者としてメンバーを募り編成することになった。その性質上、頻繁に顔を合わせることが難しく、グループ LINE 等を利用し連携をとっている。ただし、活動の根幹となるような事柄を決める際には、ミーティングを行い話し合っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

全てのコミュニティのメンバーが所属しているため、各コミュニティの情報は得やすい環境となっている。

■ 教職員との連携について

ボランティア活動支援グループの職員から助言をいただいて活動を行っている。今後も適宜職員と意見交換をしながら、学生主体の質の高いピア・サポートを目指していきたい。

■ 課　題

今年度は、各コミュニティからメンバーを募る形でぴあかんずの活動を行うことになったが、いずれ活動が安定すれば一般学生からも募集を行いたい。また、活動内容に関して、まずは現在試験的に行っているインスタグラムを利用したピア・コミュニティの活動発信を安定して行えるようにし、今後ほかの利用媒体の検討や、ピア・コミュニティ以外の関大生の活躍を伝えるトピックスについても考えていきたい。

◆**企 画 名**　ぴあかんず SNS 開設

日　　程　2019 年 12 月 1 日（日）～2020 年 3 月 31 日（火）

場　　所　SNS 上

参加者数　8 名（ピア・サポータ 7 名、研修生 1 名）

目　　的

ぴあかんずの活動目的である､「知られていない関大生の苦労や努力などのドラマを発掘して伝えていくことで、関西大学への関心を深めてもらう。また、その姿を見て学生の意欲を促進させることにつなげる。」をより効果的に多くの関大生に伝えるために SNS を開設する。

内　　容

・Instagram のアカウントを開設し、2020 年 4 月の正式運用を目指し、2019 年度中は非公開で運用する。
・SNS 運用ガイドラインを作成し、それをもとにメンバー各自で投稿し、運用に問題がないか確認する。
・投稿内容は、ピア・コミュニティに関すること、各コミュニティの活動内容に関することとする。

効　　果

・大学生がよく利用しているインスタグラムでの広報を行うことで、一般学生がピア・コミュニティの情報を得やすくなる。
・写真の投稿によって活動のイメージが湧きやすく、見た人にピア・コミュニティをより身近に感じてもらうことができる。

改 善 点

・活動を再開したばかりで、ひとまず、ピア・コミュニティに関することのみに投稿をとどめているが、今後、ぴあかんずの活動目的に即した投稿内容を検討する必要がある。

感　　想

ピア・コミュニティ全体として初めて SNS を開設した。2019 年度中は、正式運用に向けた準備期間としてアカウントを非公開としたが、2020 年 4 月の公開後には、より多くの人の目に触れるようにアカウントの周知を積極的に行いたい。

2.2.8　関西大学ＩＴピア・コミュニティ“i.com”

■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学 IT ピア・コミュニティ“i.com”（以下、「i.com」とする）は、“Do　IT！（IT しようぜ！）”をキャッチコピーに、IT スキル（主にパソコンを利用し、映像・Web・ポスターなどを作成する技術）を行使し、関西大学の学生に技術支援する活動を行う。具体的には、「Microsoft Office」や画像編集ソフト「GIMP」の使い方を教える講習会の開催や、ワンポイントアドバイスをまとめた小冊子を作成し、学内で配付する活動などを実施してきた。

■ 所属人数

0 名（2020 年 3 月末現在）

■ i.com の現状

2015 年度からサポータが不在となり、活動休止状態に陥った。

支援体制は維持し、活動を希望する学生のために、できる限りの支援を行う体制を整えている。

■ 課　題

活動を再開するためには、何よりもまず活動希望者の獲得が不可欠である。i.com のサポータとして活動することの魅力を発信するなど、メンバー募集に力を入れるとともに、活動が再開した場合も軌道に乗るまでは、活動におもしろさややり甲斐を感じられるよう、教職員・TA が積極的に支援を行う必要がある。

2.2.9　関西大学学生 PR チーム　SUGaO

■　ピア・コミュニティの趣旨

関西大学学生 PR チーム SUGaO（以下、「SUGaO」という）は、関西大学の魅力を学生ならではの目線で社会に向けて発信するコミュニティ。関大の「おもしろい情報」「おすすめスポット」「ユニークな人」、関大周辺の「おいしい店」などを紹介するビデオを作成し、動画サイトへアップロードしたり、WEB、SNS を利用し関西大学の“まだ知られていない”情報を発信している。

■　所属人数

14 名　＊1 年次 4 名、2 年次 3 名、3 年次 3 名、4 年次 4 名（2020 年 3 月末現在）

■　ミーティングの概要

週 1 回

■　ピア・コミュニティ内の連携について

SUGaO は千里山キャンパスと高槻キャンパスの両学生から構成されており、幅広い分野での活動が可能である。例えば、高槻キャンパスの総合情報学部の学生は PC の操作に優れており情報発信の際に活躍している。また、千里山キャンパスの学生も司会や取材を行うなど、双方の強みを活かしたり、苦手分野を補うように協力している。ただし、活動はメンバー全員で行うことが望ましいので、4 月には動画編集講座を設けるなど全体のスキルアップにも尽力している。

■　ピア・コミュニティ間の連携について

懇親会や合宿によって、以前より他のコミュニティとの関わりは増えたが、やはり代表者会議に出席するメンバーだけの関わりが多い。これからは代表者以外のメンバーの、ピア・コミュニティ全体の行事への参加も積極的に促していきたい。

■　教職員との連携について

アドバイザーとして社会学部の高増教授や、総合情報学部の谷特別任用教授に助言をいただきながら活動を行っている。また、支援部署であるボランティア活動支援グループとも連携しながら、よりよい活動となるよう取り組んでいる。

■　課　題

SUGaO の課題は、「メンバー全員が問題意識を持ち、主体的に行動すること」である。これはどんな団体でも言えることかもしれないが、メンバー全員の主体性がなくては、意識の違いによるわだかまりや責任の転嫁が起こり、プロジェクトは成功できない。とはいえ、この課題は一筋縄では解決できることではなく、まず初めに、全員が主体的に取り組みたいと感じるような「システムづくり」を行いたい。そのための第一段階として、「個々の役割決定」を新学期から進めていきたいと思っている。

◆企 画 名　ビデオウォールを使用した総合関関戦 PR イベント
日　　程　2019 年 6 月 7 日（金）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　学生ラウンジ
参加者数　10 名（研修生 9 名、一般学生 1 名）
目　　的

・新しくなった学生ラウンジのビデオウォールおよび開会が近い関関戦の PR を行う。
・SUGaO の認知度を上げる。

内　　容

11:30　スタッフ集合、会場設営、準備
12:15　イベント開始
　はじめに SUGaO が作成した関関戦の PR 動画を約 3 分間放映し、続いて関関戦の説明と SUGaO の PR を行った。その後、ビデオウォールにてウィニングイレブン対決を行った。参加者は、事前に依頼していた学生（ゲーム経験者）と当日凜風館に居合わせた学生に飛び入りで参加してもらった。
　（2 人プレーのゲームを約 15 分間、2 試合行う）
12:50　イベント終了、片づけ

効　　果

・凜風館が人の集まりやすい場所であることから、事前に告知などは行わず開催したが、当日学生ラウンジに集まっていた学生の注目を集めることができ、楽しんでもらえた。
・e-sports 大会に関連させるという今までにない形で関関戦を PR することができた。

改 善 点

・イベントの開催にあたって、直前での変更点が多く、職員の方との連携が円滑ではなかった。
　→今回の開催経験を活かし、今後はより円滑なやりとりを行う。

感　　想

　新しくなったビデオウォールを活用した初めてのイベントであったが、イベント開催中には大きなトラブルもなく、終えることができよかった。

◆**企 画 名**　関関戦取材 2019

日　　程　2019 年 6 月 9 日（日）

場　　所　関西学院大学　上ヶ原キャンパス

参加者数　9 名（ピア・サポータ 1 名、研修生 8 名）

目　　的

歴史ある関関戦で試合に励む選手の様子を取材し、SUGaO の持つ広報媒体である WEB サイトにその様子を特集記事として掲載することで、より多くの人にその魅力を伝える。

内　　容

10:30　関西学院大学上ヶ原キャンパス集合
11:00　開会式取材
13:00　各競技取材（空手道部、柔道部、野球部、卓球部、テニス部、バレーボール部女子、重量拳部、バレーボール部男子、サッカー部）
20:00　解散

効　　果

競技中の選手の姿を映像に収めるだけでなく、競技前および競技後の選手に直接取材に行くことで、実際の選手の緊張感や心構えなどについて取材することができた。これを関関戦特集ページにすることで、幅広い人たちに対して新たな関関戦の魅力を伝えることができた。

改 善 点

・事前に各部活の取材許可について、体育会本部の方と連絡を取っていたが、連絡が滞りやすかったため、早めに許可申請を済ませる。
・取材当日に、自らの立場を示す腕章や衣服等の着用をしておらず統一感がなかったため、今後は団体を示すパーカーやピア・コミュニティの腕章を着用する。

感　　想

今回の取材が正式な手続きを踏んでの初めての機会となったが、大きな問題を起こすことなく無事に取材を終えることができた。

撮影をしていく過程で、「どういう映像が必要なのか」「どの角度からの映像が必要なのか」といったことを考え、臨機応変に対応し、満足のいく映像を撮ることができたのでよかった。

◆**企 画 名**　サマーキャンパスでの SUGaO イベント
日　　程　2019 年 8 月 3 日（土）～8 月 4 日（日）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　学生ラウンジ
参加者数　158 名（ピア・サポータ 1 名、研修生 7 名、一般参加者 150 名）
目　　的

・関西大学の魅力を、映像とスポーツを通して PR する。
・関大生の素顔を学生の視点で紹介し、身近に感じてもらうことで SUGaO の活動の PR も行う。

内　　容

【3 日】
10:00　スタッフ集合（打ち合わせ・リハーサル）
11:00　イベント開始　「高増ゼミ有志によるバンドのライブ」
11:30　関関戦 PR ビデオ上映
11:45　ウイニングイレブン対決（プロゲーマーかつぴーやさんと高校生との対戦）
13:00　イベント終了

【4 日】
10:00　スタッフ集合（打ち合わせ・リハーサル）
11:00　イベント開始　「高増ゼミ有志によるバンド×育英西高校軽音楽部コラボライブ」
11:30　関関戦 PR ビデオ上映
11:45　クイズ大会「関大どうでしょう」第 1 回
12:10　関関戦 PR ビデオ上映
12:20　クイズ大会「関大どうでしょう」第 2 回
13:00　イベント終了

効　　果

・両日ともにバンドライブは凜風館で休憩をしていたオープンキャンパス参加者の注目を集め、当イベントの集客効果があったとともに、大学での自由な文化的体験の周知に貢献した。特に 2 日目は高校の軽音楽部と大学生バンドがコラボレーションすることで、より近い形で高校生と交流することができた。
・ウイニングイレブン対決では、大型モニターでプロゲーマーと対決をするという参加型の珍しい体験で、違った視点から関西大学の魅力を伝えることができた。
・クイズ大会では関西大学の意外な豆知識を問題にし、関西大学をより身近に感じてもらうことができた。

改 善 点

・トラブルが起きた時の対応が、参加者を不安にさせる間を作ってしまうものだったので、司会・舞台監督・連絡係の連携を密にすることで、イベント開催中のトラブルに迅速に対応できるようにする。
・呼び込み用の当日チラシを直前に制作したため、印刷枚数が不十分だった。計画的にチラシを制作し、より多くの人に周知できるよう工夫する。

感　　想

昨年度実施したクイズ大会で課題となった参加者の確保に関しては、回答用紙配布の方法の変更によって改善され、多くの高校生に参加してもらえた。また、ウイニングイレブン対決は初めての試みだったが、プロゲーマーVS 高校生という形式により、会場に居合わせた人全員が試合に集中、熱狂し一体感のあるイベントとなった。

◆**企 画 名**　学園祭取材

日　　程　2019 年 11 月 1 日（金）～ 2019 年 11 月 4 日（月）

場　　所　中央ステージ・あすかの庭・経商ステージ・各教室

参加者数　23 名　（研修生　1 日目 6 名　2 日目 5 名　3 日目 6 名　4 日目 6 名）

目　　的

・学園祭において関西大学であまり知られていない出し物や活動を行っている団体への取材を行い、それらを発信することによって関西大学の幅広い活動を紹介すること。

内　　容

4 日間にわたって学園祭の取材と撮影をおこなった。取材担当が 2 チームと撮影担当の合計 3 チームに分かれて行動した。取材内容は、穴場取材と 10 秒インタビュー、撮影は新入生むけ入学式動画用におこなわれた。

効　　果

・普段は関わらない他団体との交流が図れ、横のつながりが広げるきっかけになったことである。というのも、関西大学の各活動において、横のつながり、つまり各コミュニティ間の関わりが非常に少ないという問題があると SUGaO は考えている。そのため、問題が生じても閉ざされたコミュニティ内でしか解決方法が見つからず、非常に狭い活動範囲に限られてしまう。SUGaO はこの問題を解消するための 1 歩目が、お互いの活動内容を「認知」することだと考えている。よってあまり認知されていない団体の活動内容を動画という媒体でおさめることができたことの成果は非常に大きなものだと考えている。現在この動画を多くの学生に視聴してもらうために、ビデオウォールの放送を企画している。
・実際に取材撮影を行うことによってメンバーの取材技術が向上したことである。取材・撮影にはある程度の技術が必要であり、話す力や撮影のアングルなど自らの経験を通して学ぶことが多い。特に 4 月からは取材が増えることが予想され、ある程度の完成度が求められる中、このような長期間の取材・撮影を行えたことの成果は大きい。

改 善 点

・メンバーのほとんどが動画編集初心者なので、全員がある程度の水準で動画を作成するまでには時間がかかる。また、動画編集に必要なソフトが入っているパソコンの台数が十分でないことにより、作業時間を十分にとれないという問題点もある。現時点では、新学期から動画編集講座を対策として考えている。パソコンの台数については、今後大学の職員の方と相談していきたい。
・現在、学園祭で撮影した動画の編集はほぼ完了しており、新学期からビデオウォールで放送できるよう、スイッチャーなどの機材をつかって完成度を高めていく予定である。

感　　想

・およそ一か月前から模型同好会や鉄道研究会、電気通信工学研究会へのアポイントメントをとったため、当日取材がスムーズに行えた。
・10 秒インタビューは文字通り、約 10 秒間という短い時間で、学園祭に参加する人にむけてインタビューをするものである。こちらは穴場取材と対比すると、すこしインフォーマルなものであり、突然屋台を催す学生に番宣をしてもらったり、学園祭を楽しむ学生に感想を尋ねたりと学生目線での動画になるよう工夫した。短いインタビューを 100 本近くは行ったので、かなりの体力を要したが、その分インタビューに慣れることができたと考える。

◆**企 画 名**　ピア・コミュニティ PV 作成
日　　程　2020 年 3 月完成
場　　所　総学生会館凜風館 1 階　大型モニター等
参加者数　3 名（ピア・サポータ 1 名、研修生 2 名）
目　　的

・活動の様子を映したピア・コミュニティ紹介動画を作成し、笑顔や真剣に取り組む姿から、一般学生にわかりやすく、視覚的に活動をイメージしてもらえるようにする。
・SUGaO が映像コンテンツを作成し、関西大学の魅力を発信するピア・コミュニティであることを知ってもらう。

内　　容

新年度のはじめには、新入生に向けてピア・コミュニティの活動を紹介する機会があり、その際に紹介動画を流すことで、より頭に残る活動紹介とする。また、大型モニター等を利用し、広く一般学生にピア・コミュニティを広報する。

作成にあたり、SUGaO で撮影した動画に加えて、各コミュニティから活動の写真や動画を提供してもらい、支援部署担当職員と話し合いながらイメージをまとめた。

＜PV の構成＞
・3 分程度の動画。
・各コミュニティの紹介、企画の様子、活動報告会（シニア・サポータ認証式）等の写真・動画を盛り込む。

効　　果

・口頭での説明に加えて、実際に活動している動画を見てもらうことで、ピア・コミュニティへの理解が深まる。
・同じ関大生が活動している様子から、「こんなことができるんだ」と親近感を持ち、ピア・コミュニティに関心を寄せるきっかけとなる。
・映像コンテンツの作成に興味のある学生に SUGaO の存在を知ってもらい、入会へとつながることが期待できる。

改 善 点

・各コミュニティの素材を十分に集めることができなかった。前もって PV を作成することについて各コミュニティに周知し、普段の活動で写真や動画をたくさん撮ってもらうようお願いしておくべきだった。
・タスク管理が出来ておらず、締め切り日直前での完成となってしまった。早く行動しておけば、動画の質をさらに上げることができた。

感　　想

・動画制作は何度が経験したことがあったため、職員さんからピア・コミュニティの考えや動画を通して伝えたいことをお聞きした時、ある程度の動画のイメージは構築することができた。
・改善点でも述べたとおり、タスク管理がうまく出来ておらず、焦ることが何度かあったが、最終的には職員さんや私も納得のいく PV が出来上がり満足している。

2.3　ピア・サポータからのメッセージ

運営本部で１年間活動して

ピア・コミュニティ運営本部　宮崎一功

私がピア・コミュニティ運営本部に入ったきっかけは、インフォメーションシステムに流されていたお知らせでした。最初にピア・コミュニティのことを知ったとき、ピア・コミュニティは学生のどんな些細な悩みにも対応して解決してくれる何でも屋みたいな存在だと思いました。2 回生になり、運営本部の代表になった私は、職員の方々の協力を受けながら、当初イメージした何でも屋みたいな存在に近づけようと活動しています。

運営本部の代表となりメンバーを率いて活動していくうえで、自分とメンバーの認識の違いや思いの差などがあり、企画進行が思うようにいかないといったことが何度かありました。そのため、代表になったことを後悔したり、辞めたいと思ったこともあります。そんな時、全国のピア・サポート活動を行っている大学が集まるイベント「ぴあのわ」や、「ピア・サポート学会」に参加して、他大学の人と交流する機会があり、同じ悩みを抱えている人がいることを知り少し安心しました。今では前向きに、ピア・コミュニティの活動がより学生の生活支援につながるように、新たな企画として「ピアカフェ」という学生の相談の場を設けることを考えています。1 から企画を作るのはとても難しく、企画の意図をメンバーに十分伝えられているのか、メンバーにどう作業を割り振るのかと考えることは多くあり、スムーズに進行しているとは言えない状況です。しかし、この企画は今後のピア・コミュニティの活動において非常に重要な役目を担うと私は考え、企画の運営にとてもやりがいを感じています。

先にも述べましたが、全国のピア・サポート活動を行っている学生と交流するイベントは、年に数回様々な場所で行われています（昨年度から関西大学主催でも他大学交流会が行われています)。そのようなイベントでは、全国の学生と交流することができ、また全国各地の会場で行われるため、旅行気分でとても楽しかった思い出があります。県外の友達も作ることができて、これはピア・コミュニティでしか味わえない思い出だと思います。

関西大学には、悩みを抱えていても相談する相手がおらず、一人で抱えっぱなしになっている学生が少なからずいることが分かっています。それを考えると、ピア・サポート活動は必要であると私は感じています。これからも運営本部の代表としてメンバーを導きながら、全国でピア・サポート活動を行う学生たちとも情報共有をしていくことで、関大生が悩みを打ち明けてより大学生活が充実するような環境を少しずつ整えていきたいです。

（政策創造学部　2 年次）

KUブリッジ

KUブリッジ　髙谷綾香

私は世界の文化に興味があるため、入学当初から留学生と関わる機会が多くある大学生活を送りたいと思っていました。そんな中、留学生のサポートをしているKUブリッジの存在を知り説明会に参加しました。留学生と関わることができる団体は他にもありますが、説明会での先輩方の暖かい雰囲気とミーティングや書類の作成等、本格的なイベントの企画・運営に関わることができるという点が決め手となりKUブリッジに所属しました。5月に本格的に活動し始め、この1年間はとても充実していたと感じます。イベントの企画・運営は想像していたよりも大変ですが多くのことを学ぶことができ、自身の成長に繋がっています。週に1回行っているミーティングはメンバーのみんなと話すことができる貴重な時間です。企画の内容や書類についてアドバイスをもらい、経験や新しいスキルを教えてもらうことで自分の弱み、強みに気づくこともできます。また、イベントで参加者と交流することによって視野が広がり、コミュニケーション能力が伸びました。イベント後、参加してくれた留学生と言語交換をすることで刺激を受け、文化や言語についてより知識を深めたいと思うようになりました。

KUブリッジの活動に加え、9月にはピア・コミュニティ全体で行う活動報告会に参加しました。その際ピア・コミュニティがどのような思いで作られたのかを知ることができました。込められた思いは、自分のことが中心になりやすい大学生活において他の人のために考え行動する経験も大切なのではないか、というものでした。このことは強く印象に残るとともに、私の考えを大きく変えるきっかけの一つとなりました。それまで私は、自分が何をしたいのかを重視しそれのみを基準にして行動していましたが、今はそれ以外にも自分の培った力を自分のみでなく誰かのために、何にどのように活かすことができるかを考えています。また、このように考え方が変わったことで今まで興味を持っていなかったことに対しても関心が湧くようになりました。そして、幅広く様々な経験をたくさん積むという大学生活の目的を見つけることができました。

KUブリッジを通して様々な活動をしてきたことは自信につながっています。今までは新しいことに取り組む際不安に感じることが多かったですが、今は新たなことにも臆さず意欲的に取り組めるようになりました。KUブリッジの活動では自分から新しい企画を提案できるようになり、運営に向けて準備を進めています。

積極的に挑戦することができる環境、支えてくださる方達、そしてKUブリッジのメンバーに感謝しながら、これからも全力で活動していこうと思います。

（法学部　1年次）

ピア・スポーツコミュニティ（PSC）

ピア・スポーツコミュニティ（PSC）　栗林優樹

ピア・スポーツコミュニティ（以下、PSC という）は、2019 年 4 月に再出発したばかりのコミュニティです。先輩ピア・サポータが在籍していないことから、スポーツ振興グループの担当職員の方をはじめとした多くの方々が全面的にサポートしてくれています。

まず、私が PSC に入るきっかけになったことを話したいと思います。私は大学に入ったからには、何か勉強以外の活動にも取り組みたいと考えていました。そんな時に声をかけてくれたのが、ピア・コミュニティの方々でした。ガイダンスで様々な興味を引く話をしてくれ、企画運営をしてみたいと思うことができ、PSC に入ることにしました。

では、PSC でどんな活動をしたのかについて紹介します。春学期は、ピア・コミュニティメンバーを対象としたスポーツ大会を実施し、秋学期には体育会クラブの試合、イベントの広報のためポスターを配布しました。春学期ではメンバーが 4 名いたため、スポーツ大会という大きなイベントをすることができましたが､秋学期には私 1 名となってしまい、イベントへの向上心と企画作りの楽しみが半減してしまいました。

ここで、私が学んだことを 2 つ挙げます。1 つ目は「人数と楽しさは比例する」ということです。これは日常生活においても言えることですが、大勢の人とワイワイすればそれだけで楽しく、さらに友達の輪が広がると思います。輪が広がれば他人の輪との接点が多くなり、さらに人とのつながりを持つことができます（イメージでは五輪のような)。

2 つ目は「周りの環境の大切さ」です。実際この PSC の代表になってもわからないことも多く、つらいことも多いです。一方で、困ったときには周りの職員さんや、他のコミュニティのピア・サポータの方々がアドバイスをくれ、サポートをしてくれます。こうしたサポート体制の整った環境が助け舟でもあり、その存在は憧れでもあります。私もそういう環境を提供できるような人間になりたいです。

最後に次年度の抱負として、私がこの先ピア・サポート活動で取り組みたいことについて述べます。私は、このコミュニティの企画で最終的にはミニ運動会のようなものを実施したいと考えています。つまり、複数の競技を得点制で実施し、合計得点で争うというものです。しかし、実施するためには運営メンバーが必要なので、もう少し時間がかかりそうです。実際に開催できたら、大勢の方に参加してもらえる素晴らしいイベントになると考えているので、これからも頑張っていきたいと思います。

（化学生命工学部　1 年次）

私がピア・サポート活動で得たもの

KU サポートプランナー　角南燈也

私が KU サポートプランナーに入会することになったきっかけは、友人の紹介でした。当時、大学のサークルなどの団体に所属していなかった私は、特に断る理由もないため、一度ガイダンスを受けてみることにしました。そのガイダンスの中で KU サポートプランナーに興味を持った部分は、「社会人基礎力が身につく」という点と、「関大生のニーズに合わせた企画の運営をしている」という点でした。これらに興味を持った理由としては、私が自己成長の機会を求めていたからです。これまで多くの人と接する機会を避け、他人の考えに興味を持たなかった私にとって、関大生のニーズを考え行動するといった活動内容は、大きく自分の成長につながるだろうと感じていました。そのような思いから、KU サポートプランナーに入会することを決めました。

入会して 1 年の間は、人数不足のため規模の大きい企画を行うことができず、活動のほとんどが週に 1 度の会議のみとなっていました。しかし、私はその中にこそピア・サポート活動のやりがいがあったと感じています。少ない人数で何ができるかを一人ひとりが真剣に考え、役割分担をして実行に移した「ピア・カフェ」は、小規模ながら非常にやりがいのある企画であったと思います。

そして、人数が増え規模の大きい企画ができるようになり、私が初めて責任者として行った企画が「プレゼン教室」でした。この企画では自分自身が中心となって、話し合いや準備を行う必要があったため、企画の実施経験が少なかった私は手探りで先導しているような不安を感じていました。しかし、先輩方からの助言やメンバーの助けを受けて無事に企画を実施できた時には、その分大きな達成感がありました。また、この企画を準備する中で、それぞれの作業の進捗状況などの確認を行い、全体を俯瞰して調整を行うという経験ができたことで、企画を運営するにあたっての責任感を得ることができたと感じています。

その後、夏休みに関大生からある企画案が持ち込まれました。それが「釣り企画」です。しかし、企画者との打ち合わせが十分でなかったことなどが原因で、最終的にこの企画は中止することになりました。その際の企画者の方への説明や、自分たちの力不足を実感できたことは、失敗ではあるものの得難い経験であったと思います。

このような経験を通して、私は責任感や達成感といったものに加え、失敗から自分たちを見つめなおすことによって自己理解を深めることができたと思います。これまでの活動を踏まえ、今後もみんなで KU サポートプランナーをより良い形に作り替えていきたいと思います。

（経済学部　2 年次）

KU コアラに所属する自分

KU コアラ　西島瑞起

私が、KU コアラに入ることになったきっかけは、インフォメーションシステムのお知らせで見た「KU コアラ　新入部員募集」の文でした。そのお知らせを見た私は、何も深くは考えずガイダンスを希望する旨のメールを送信していました。ガイダンスを受け、学生の立場から本に関わるさまざまな企画を行うことができるという点に魅力を感じ、何かと受け身な姿勢で人生を過ごしてきた自分を、KU コアラの活動を通して少しでも変えられるのではないかと思い入会しました。

私は、ピア・コミュニティの活動の中で、やはり企画が無事終了したときに「やってやった」という達成感を感じます。企画は KU コアラのメンバーだけでなく、図書館事務室の方や職員の方にサポートしていただき、一般学生に参加してもらうことで成り立っています。自分の力だけでは到底企画を成立させることはできず、多くの人の協力を得て実施した企画であるから感じることができる気持ちだと思います。人との関わりが多いピア・コミュニティの活動では、自己中心的な考えを持ちすぎると上手くいかず、協調性とある程度の自己主張が大事であるということも気づくことができました。さらに、KU コアラの代表としてコミュニティの運営を担うことで、責任感も持つことができました。

また、これまで活動してきた中で特に印象に残っているのは、初めて自分達の代がメインになって企画を運営した時のことです。それまでは、先輩達に頼ってしまっているところがあり、自分はあまり主体的に動くことはありませんでした。しかし、主導することになり、初めて「どうしたら参加者が増えるだろうか」「どうしたら参加者に楽しんでもらえるか」等を考え企画を詰める難しさを感じたり、事業計画書を作成して事務室の方にメールを送ったりする事務能力も鍛えられたことなど、多くのことを得ることができたと思います。参加者の「また参加したい」の声にも、やりがいを感じ次回への企画の活力となりました。初めて行う企画であったので、詰めるべきところが詰め切れておらず反省すべき点も多くありましたが、これも自ら考えて企画を行ったからこそ得ることのできたものであると思っています。今までのピア・サポート活動を通して得たさまざまな経験を活かし、今後も企画を作りあげていきたいと思います

（経済学部　2 年次）

SUGaO に入って

関西大学学生 PR チーム SUGaO　泉裕太

私が SUGaO に入ったのは、2 年生の 5 月頃でした。私の他にも 2 年生が 2 人いましたが、彼らは 1 年生の頃から活動していたので、私は少し遅めのスタートでした。入会した理由は、大学生活をこれ以上無駄にしたくなかったからです。というのも、1 年生の時に過ごしたキャンパスライフは、思い描いていたものとは全くかけ離れており、授業を受けては帰宅し家でだらだら過ごす、という散々なものでした。それゆえ仲の良い友達もほとんどおらず、大学って面白くないなぁ、と感じていました。これではさすがにまずいと思い、なんらかのコミュニティに参加しよう、と入会したのが SUGaO でした。

そうして、とりあえず毎週会議に参加するようになったのですが、そこで SUGaO のメンバーの意識の高さに驚きました。それぞれのメンバーが自分の意見をもっており、代表は会議の進行をしつつ、みんなの意見をまとめていました。自分が家で無駄な時間を過ごしている間に、大人顔負けの話し合いをしている様子にかなりショックを受けたのを覚えています。とはいえ、入会した当時は会議を眺めていたり、活動にただただ参加するだけの状態が続き、どこか他人事でした。

意識が一気に変わったのは、8 月のオープンキャンパスです。2 日間にわたって凜風館の 1 階で高校生に向けて関大クイズをすることになっていました。私はいつものようにとりあえず参加しておこうという感じだったのですが、その時はそうは言っていられなかったのです。代表と副代表のどちらも予定が入っており、クイズ大会の司会を誰が担当するか、という問題が浮上しました。かなり悩みましたが、自分を変えるのは今しかないと思い 2 日目の司会に立候補しました。当日はかなり緊張しましたし、失敗もありましたが、なんとか 2 時間にわたる司会をやりきることができました。本当に疲れましたが、それ以上に SUGaO の役に立てたことの喜びが大きかったです。

11 月には昨年度と同様、学園祭における取材・撮影を行いましたが、今年は学園祭であまり注目されていない団体に焦点をあてて取材をしようという「穴場取材」を新たに盛り込み、彼らの魅力を動画に納めることが出来ました。この頃から SUGaO としての活動は、「関大生の知られざる魅力発信」がテーマになっていきました。

活動に積極的に参加しているうちに、メンバーと話す機会も増え、だんだん活動が楽しくなっていきました。また、ピア・コミュニティの合宿にも参加し、SUGaO 以外のコミュニティとも交流を深めていきました。このようにして今では、1 年生の時とは比べものにならないくらい友達ができ、大学生活も充実するようになりました。

今、私は SUGaO の副代表をしています。意見をまとめたり、職員さんと新企画の打ち合わせをすることは確かに難しいですが、とてもやりがいを感じます。これからも活動の場を広げてゆき、私がそうであったように多くの関大生を巻き込んでいきたいです。

（社会学部　2 年次）

2.4　支援部署職員からのメッセージ

学生による学生のための国際交流

国際教育グループ　飯島直樹

KU ブリッジは「外国人留学生と一般学生の架け橋」となることを目的として、2008 年に発足し、国際交流イベント等を企画しているピア・コミュニティです。ほぼ毎月、さまざまなイベントを企画し、国際交流活動を行っています。今年度は国際交流パーティー、フィールドトリップ、スポーツ大会などを行いました。

私は、国際教育グループで受入留学生支援業務に従事していますが、今年度、初めて KU ブリッジの担当となりました。関西大学では、1,000 名を超える外国人留学生が学んでいます。彼らの「一般学生と交流したい、友達になりたい」という希望と、一般学生の「外国人留学生と交流したい、友達になりたい」という希望。この双方の希望を、学生目線でマッチさせる役割を KU ブリッジは担っています。学生のニーズに対して、一番近くで、一番身近な対応ができるのが KU ブリッジの魅力だと感じています。

そのなかで、私が特に注目していたのは、日々の活動のなかで、KU ブリッジのメンバーが少しずつ成長してくれていることです。学生生活でいろいろなことに気づき、新たな国際交流の取り組みを考え、企画を実施していくなかで、活動に参加する KU ブリッジのメンバー自身の企画・想定・創造する力が醸成されていくほか、後輩への指導力、集団を動かすリーダーシップも身に着けることができ、活動のなかで成長していってくれていることが、大いに見てとれました。また、週に 1 回のメンバーとのミーティング、企画実行の主要メンバーとの打ち合わせ、事業計画書・予算書作成、そして大学への相談・確認など、個人が感じたことをメンバー全員に共有して、それをチームで一つにまとめ、形にしていくことの大変さ、そしてやりがいを学んでくれているのではないかと感じます。

今年度は、部活動・サークルと外国人留学生を繋げる新たな取り組みを企画・検討したり、KU ブリッジの SNS フォロワー増加に向けた周知をしていくことに、特に力を入れて活動してくれました。国際交流にこれまで接点・興味のなかった学生にも国際交流の輪のなかへ入ってもらえるよう、さまざまな企画を検討してくれています。また、外国人留学生に対するサポートとして、学生寮で使用された生活用品を回収し、次学期に学びをスタートする学生に無料譲渡する「KU バザー」も行っています。在学生が使用したものを、KU ブリッジが架け橋となって次の外国人留学生に引き継ぐ、というサポート体制ができており、好評を得ています。

今後も、KU ブリッジのメンバーが感じていること、考えたことを自由に企画・提案してもらいながら、私もアドバイスを加えるなかで、より良いイベント企画、ピア・コミュニティ活動、そして KU ブリッジのメンバーそれぞれの成長を目指して、職員としてサポートしていく所存です。

ピア・サポートを通じた人間的成長

学生生活支援グループ　中谷祥吾

私は、2018 年度から KU サポートプランナー（KUSP）を担当させていただいております。
私自身、学生時代はピア・サポートの活動の存在を知りませんでしたが、職員になってピア・サポートに携わることができ、日々勉強させていただいています。

担当になった当時は分からないことが多く、職員の先輩方からピア・サポート活動の基本や位置付け、学生への支援の仕方について学ばせていただきました。ピア・サポートについて日々勉強中の身ではありますが、私が学生の皆さんのサポートで大切にしていることをここでお話しさせていただきます。

ピア・サポート活動において、「学生が学生を支援する」ことを様々な分野において行っています。私が担当する KU サポートプランナー（KUSP）は、イベント企画を通じて関大生をサポートするコミュニティです。関大生の個人及び団体におけるアイデア企画を募集し、企画者と共同で企画を立案から実施まで行います。人が頑張っていることや実現したいことに対して、企画者に寄り添って企画運営を行っています。自分達がやりたいことを実現するだけでなく、企画者とコミュニケーションをとって、一つの企画を立案し実現させていくという活動を行っています。また、関大生のニーズに合ったイベント企画の発信も行っています。

私が考えるピア・サポート活動を行っていく最大の目的は、活動を通じた人間的成長です。これについては、アプローチは違えど体育会や文化会等の課外活動と同様であると考えています。

人間的成長をしていくためには、その活動を通じた自己成長が重要であると考えています。団体運営や企画実施におけるその過程では、様々な課題や困難が出てくるでしょう。それに直面した時に、学生が自ら悩んで、考え抜いて、一つの答えを出すところまで見守れるようなコミュニケーションを私は心がけています。そこには学生自身の自己成長する機会があり、また自己実現に向かっていく過程なので、職員として容易に回答はせず、学生に対しては「なぜ？どうして？」という言葉を投げかけるようにしています。時々難しい宿題を出してしまうこともあるかもしれません。学生の意見を傾聴し、彼らの素晴らしいアイデアやポテンシャルを引き出すために上述のコミュニケーションを意識するようにしています。

「学生時代に色々大変だったけど、ピア・サポート活動があって本当に成長できたよなー」と思って社会に巣立っていってもらえるよう、これからも学生の人間的成長を見守り、サポートしていきたいと思います。

3　学生支援室の活動報告

3.1　学生支援室の役割と主な活動

学生センター内に設置されている「学生支援室」では、ピア・コミュニティの支援等（ピア・サポータの研修を含む。）を行っている。

ここでは、TA（ティーチング・アシスタント）が中心となり活動を行っており、上述の全般的な補助業務とともに、ピア・サポータに対する助言を、教職員とともに協働して行っている。また、学生と大学がうまく連携できるように橋渡し的な役割も果たしている。

しかし本年度の反省点として、卒業を迎える TA が活動時間の確保を十分にとることができず、各コミュニティとの接点が少なかった点が挙げられる。次年度への課題として、本年度と同様にコミュニティの担当制をとり、コミュ二ティ内の悩みやアドバイスの方法等を TA 間でも共有できる仕組みを検討する。

また本年度は TA の人材確保が急務であったため、教員からの紹介だけでなく公募による募集も行い、結果として 3 名の新しい TA を補充することができた。

TA は、学生を支援する関わりが深いため、その果たす役割は大きい。また、ピア・コミュニティ支援を行うには、ピア・サポートに関する専門的知識やピア・コミュニティに対する理解等が必要となるが、教職員については、役職者の変更や人事異動による交代が避けられないことから、質的・量的に十分なピア・コミュニティの支援を継続的に行うためには、TA の存在が重要となる。

TA と教職員の連携をさらに強化しつつ、ピア・サポート活動を学生たちと共に育む機関の一つとして、今後も学生支援室を継続して運営していく所存である。

3.2　学生支援室 TA との座談会

1　目　的

2019 年度の学生支援室における活動の振り返りを行い、TA の活動支援上の悩みや課題を共有する。また、学生支援室が持つ特徴や良い点に対する気づきを深める。

2　参 加 者

学生支援室 TA　　佐藤、竹本、宮原、安岡（欠席）

ボランティア活動支援グループ職員　　中井、山本

3　概　要

日　時：2020 年 3 月 12 日（木）11：00～12：00

場　所：誠之館 2 号館 1 階　学生支援室

形　式：フリーディスカッション（座談会）

4　内　容

中井：それでは、2019 年度の学生支援室 TA の振り返り会を始めます。テーマは主に 1 年間の振り返りと今後の学生支援室の運営について、これからの取り組みに関することで活発な発言をお願いします。

佐藤：振り返りから入ってその中で気になる点や追加点を言っていきましょう。今後のことについては一度意見を出し合ってからでいいかなと思いますので、主観的な話でもコミュニティに関する話でも言っていただいて。竹本さんいかがでしょう。

竹本：はい。まず振り返りですが、この 1 年の前半は就職活動、中盤は教員採用試験と他の用事にかまけてしまってピアに関わることができなかったことが挙げられます。報告書にもある通り、学生だけではなく TA にもある程度の強制力を与えても良いのかなと思います。僕は自身の私用を優先してしまいましたが、ピア活動を積極的に取り組める方がベストだとは思うので、、、。
またこの 1 年と言うより、大学院に進学して、ピアに関わることになってから、他大学の交流会や学会の方に足を運ばせていただくことが多く、関西大学のピア・サポート活動は TA の存在が大きな特徴であることに気づかされました。ですので、今後は TA からの働きかけをもっと強めてもいいのかなと。

中井：具体的に働きかけというのはどのように行うのでしょう。

竹本：1 つ 1 つの活動に携わりたいなと思います。TA 側からと言うよりかは学生側から発信をしてもらい、活動を始めたいなと、僕としては。「次のミーティングはいつですか？」とか「今、どんなことを企画していますか？」とか出発点がこちらになることは、少し違うのかなと思っていて、逆に「今、こんな事を企画していますが…」とか言ってもらえたら、そこから始めやすいかなと。でも僕がそんな関係性を作れていないから今の状態になっているのだろうと、今話しをしていて思いました。

佐藤：私たちがミーティングに入るとき「初対面」なんですよね。ミーティングに参加したり、しなかったりいたり。全員集まるところで「今年の TA です。」って紹介される機会があればいいんですけれども、誰か分からない人がいきなりミーティングに参加しているという状況では話しかけづらいし、そもそも先輩が TA との付き合い方をどう思っているのか分からないというのもありますから、

一度そんな機会があればいいですよね。今までそういったことをやってきていないので。うまく入り込めればいいのですが。そもそも先輩の TA 自体が行けていないということもありますから。こちら側からそのように伝える機会がないと学生からは話しかけづらいのかな。

中井：そんな機会を作ったり「TA ブック」みたいなのを作ったりして顔写真とか貼ってみんなの手元に届くというような形にしてもいいかもね。一堂に会さなくても紹介はできると思いますが。

竹本：連絡先のアドレスとか載せているだけでも変わりますかね。

中井：メールにこだわらず、どんな方法でも連絡は取れると思うんですよね。本当は、そのような連絡をする際にメールの作法とかも教えてもらえたら嬉しいけどね。

山本：メールが苦手な学生さん多いですね。ラインに慣れてしまって。それでもコミュニケーションをしないよりはいいですけれど。宮原さんはどうですか？

宮原：そうですね、特にこの１年の後半全然活動できなかったので、反省です。

中井：でも実際に学生が来たら、ほっとけないよね。「忙しいから他の人に相談して」という人はいないと思います。そういう意味では学生側の積極性を上げていく方がいいのかもね。

佐藤：例えば「事業計画書」を TA も見るというのは１つ、いいかも知れないですね。全部を確認しているわけではないですけど、少なくともそこで会話が生まれるわけで。TA としてもどんなことを企画しているのか分かると思うので。負担は少し増えてしまいますけど。感想とか書く欄があると参加していなくてもその企画に関わることができるので、いいかも知れませんね。

中井：確かに。備考欄にコメントを入れていただくだけでも、学生たちは心強いと思いますね。皆さんのもう一つの活動となる、「関西大学ピア・サポート研修」のことに関してはいかがですか？

宮原：必要と思われる研修をしたいですね。私も研修を受けてきましたが、義務感で行っている部分もありましたね。これらを受けることによってピア・サポート活動においてどんなメリットがあるかは学生側も分からないし、TA 側としてもはっきり言葉で伝えることは難しいです。

中井：確かにアンケートでも「シニア・サポーターになれば、何か優位になることがあるのか。」という回答もありますね。

佐藤：すべての学生が研修を受けることに対して積極的とは限らないですね。先輩から「あまり面白くないよ。」というのが根付いてしまっている場合があるので。そういった文化のようなものも払拭していかなければなりませんね。

中井：そうですね。本人たちがピア・サポート活動をする中で見出された課題をもとに、各々のコミュニティで自分たちの求める講座を考えさせるべきなのではと考えていますが、いかがでしょう。

竹本：「スキルアップ講座」の予算に余裕があればもっと外部の講師にも声をかけてみたりしてもいいのかなと思いました。名前だけで人を集められるような著名な方など。

中井：「スキルアップ講座」の年間開講数を考え直すことで著名人を呼べるかもしれませんね。ただそこには「このスキルを伸ばすために」ということが根底にあるので、学生にもどのようなスキルを身に着けたいのか、発信してはもらいたいですね。
各研修や講座の実施時間や出席率についても考えてみましょう。

佐藤：手間はかかりますけど、例えば動画で「前回はこんなことをやったよ」とか、「こんなことをやるよ」というようなものを作っておけば、みんな見るかなと思います。

中井：松村先生によれば、そもそも「関西大学ピア・サポート研修」の数が多いんじゃないかと。本年度、研修生からピア・サポータになった方は研修生全体の 35%です。この割合を見ても少しハードルが高い気がしていて。ましてや研修生の多くが 1 年生、2 年生で授業も多い中で研修に参加しないといけない。「関西大学ピア・サポート研修」の数や認証基準を見直してもいいかなって思います。例えば「自己理解」の研修は 1 年生 2 年生に必要なのかな。

宮原：上級生になり、就職活動を行ううえでは絶対必要ですね。1 年生 2 年生はそこまで自己理解は難しいかもしれませんね、あったらいいという程度でしょうか

佐藤：実施をしていて「自己理解」と「コミュニケーション」はまとめてもいいかなと思うことはあります。まずは自分自身のことを理解して、それを受けてコミュニケーションをとるという風に段階的な形で。その上でもっと自己理解をしたいというのであればそれはまた別の機会を作り、アドバンスト的な内容でやるという形もありかなと…

中井：この 2 つを 1 つのものにするとして、別に事前教材としてビデオでも撮っておけば参加負担も減るし、ハードルもそんなに厳しいものにはならないかな。

宮原：講座の数を減らすっていうのはピア・サポータの数を増やすことには効果がありますよね。ただ、（研修の）受講者数が増えるかと言われると…そこはまた別で整理が必要かなと思います。

佐藤：さっきの話でもあったように文化ができてしまっていたりするんで、いろいろと変えていけたらなと。聞いた話によると、ピア・サポート活動の発足当初の 2、3 年は活動が積極的だったんですが、5 年後か 6 年後くらいには「やらされている感じ」が徐々に出てきたそうです。

中井：正課授業がなくなった点は大きな転換期であったように思えます。正課の授業があるということは、ボランティア活動との違いを明確にできる訳ですから。「研修に対する積極性」＝「活動に対する積極性」という方程式が見えてきているなっていう感じなんですよね。
次に TA の人材確保というテーマに移りたいと思います。

中井：今までは TA さんや先生方からの紹介で人材を確保してきました。宮原さんは？

宮原：もともとピア・サポータで活動をしていて、そのまま継続して TA に採用していただいた状態です。経験から言わせてもらうと、専門職大学院生には少々無理があるかなと。授業数や実習時間を考えると少し厳しいですね。他の研究科の方が活動はしやすいと思います。

竹本：教育学の分野は確かに研究内容とマッチしていると思いますが、あまり大学院生がいないのが問題ですね。

中井：一番多い時期で TA さんって何人いましたか？

山本：6 人が基本定数でしたので、6 人～7 人いましたよね。

佐藤：そうですね。そこに普段はどこかで非常勤で働いていますけど、アドバイザー的なポジションの人が 1 人ですかね。1 コミュニティに 1 人は確実にいました。あとはミーティングを結構しっかりしていましたね。月に 2 回は実施していました。前半後半に分けて前半に来れない人は後半に来る、というように。もちろんどっちも来れる人はどっちも来てました。私が入ったばかりのころは TA での研修を作ろうという活動も積極的にしていましたね。コミュニティに参加す

る上で必要なスキルがあれば 2 人ほどが調べてきて…というように。
無駄話も多かったですね。ミーティングの後、時間がある学生はそのままおしゃべりをするなど、学生ともたくさん話をしていましたね。〇〇君っているよね、と言えば大体全員がイメージできるレベルになっていました。あと、合宿にも参加していましたし、今よりも関わりはありましたね。

中井:そういったかかわりが大事ですよね。安心感というのを TA さんが作り上げると、非常に強固なものになりますね。「橋渡し役」というか。

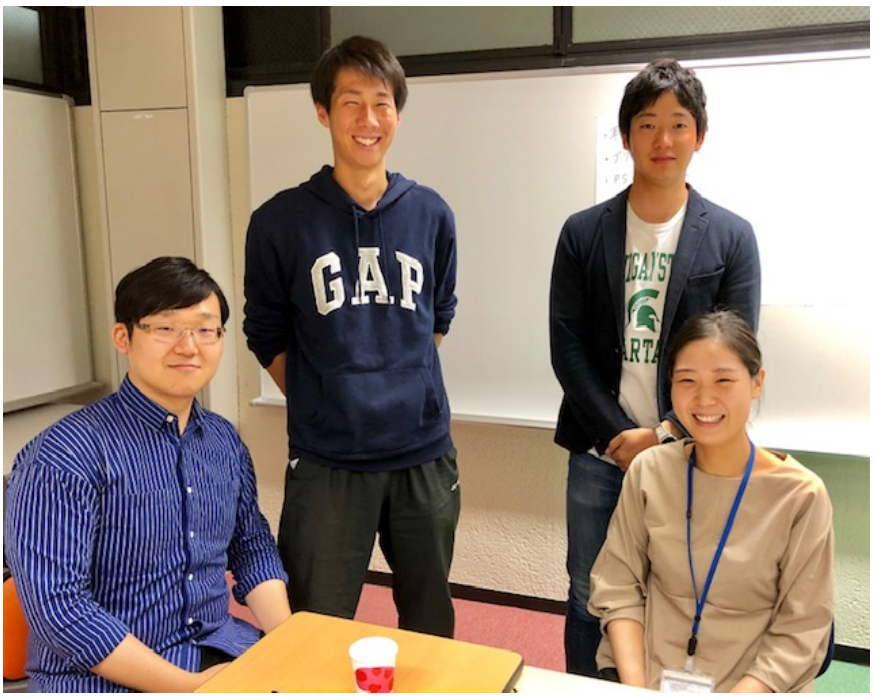
佐藤：当時は職員さんより TA の方がコミュニティについて詳しいという状態ですね。何でも知っている存在でした。

中井：それが理想ですね。

佐藤：役割分担はしっかりできていましたね。研修を作るとなると、この TA さんたちが、コミュニティの内容であれば、大体この人たち、というように。ただその時代その時代で違った様子があるので、一概には言えませんけどね。

中井：では、これで座談会を終了します。本年度 TA の活動お疲れ様でした。ご卒業される方は、この経験を生かして、次のステージでのご活躍をお祈りいたします。継続される方につきましては引き続きよろしくお願いいたします。

中井・山本：ありがとうございました。



（写真左から　佐藤さん、竹本さん、安岡さん、宮原さん）

参考資料

学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」に関する取扱内規

平成 23 年 4 月 1 日制定

1　趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の取組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事項を定めるものとする。

2　目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポータ体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

3　学生支援連絡協議会

(1)　本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(2)　協議会は次に掲げる者をもって構成する。

ア　学生センター所長
イ　学生センター副所長　１名
ウ　専任教育職員のうちから学長が指名する者　若干名
エ　学生サービス事務局長
オ　学事局（授業支援担当）次長
カ　入試事務局次長
キ　学生サービス事務局次長
ク　学長室（国際担当）次長
ケ　キャリアセンター事務局次長
コ　学術情報事務局（図書館担当）次長
サ　学術情報事務局（ＩＴ担当）次長
シ　学生生活支援グループ長
ス　ボランティア活動支援グループ長
セ　ボランティア活動支援グループ事務担当者　若干名

(3)　第 2 号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。

(4)　第 2 号ウに規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(5)　委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(6)　協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(7)　協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4　議長及び副議長

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

5　設置

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

6　運営スタッフ

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。

ア　ボランティア活動支援グループ事務担当者　若干名

イ　ティーチングアシスタント　若干名

7　事務

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附　則

この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

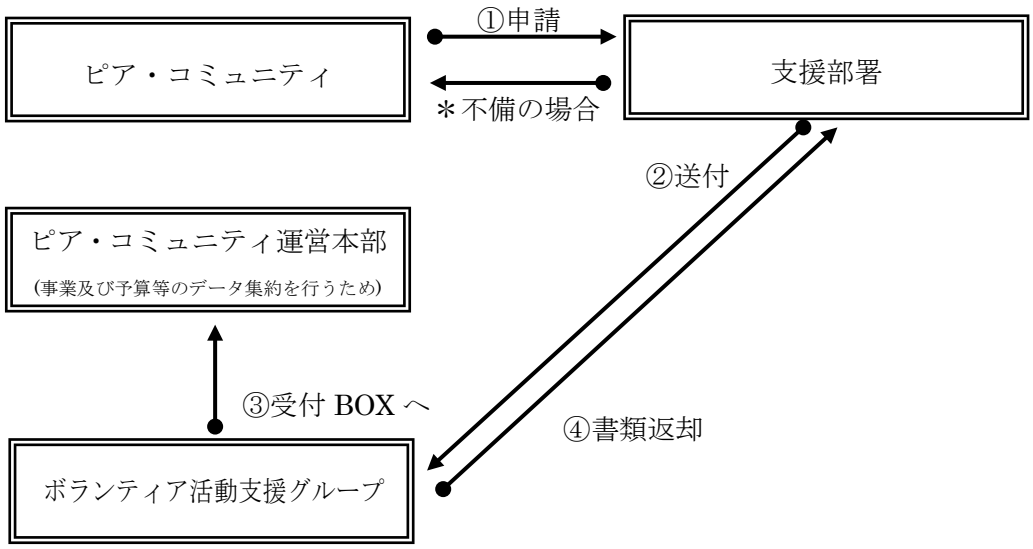
附　則

1　この内規（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　この内規（改正）施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

2019年度学生支援連絡協議会　委員名簿			
	資　　格	氏　　名	任　　期
ア	学生センター所長	岡本　哲和	役職在任中
イ	学生センター副所長	松村　吉信	役職在任中
ウ	専任教育職員のうちから学長が指名する者	多賀　　太	2018.10.1 ～2020.9.30
エ	学生サービス事務局長	村上　隆志	役職在任中
オ	学事局（授業支援担当）次長	萩原　恒夫	役職在任中
カ	入試事務局次長	井村　　誠	役職在任中
キ	学生サービス事務局次長	鈴木　啓祐	役職在任中
ク	国際事務局次長	松川　健志	役職在任中
ケ	キャリアセンター事務局次長	荒堀　善文	役職在任中
コ	学術情報事務局（図書館担当）次長	久保田　真也	役職在任中
サ	学術情報事務局（ＩＴ担当）次長	柿本　昌範	役職在任中
シ	学生生活支援グループ長	奈須　秀治	役職在任中
ス	ボランティア活動支援グループ長	宇田川　真治	役職在任中
セ	ボランティア活動支援グループ事務担当者	中井　次郎	
		村上　翔也	
		山本　未希	

●【各種申請書類の手続きフロー】⇒①～④の順に書類を回覧する。



	申請する事項	申請書類	提出期日 (ボランティア活動支援グループ)
	― ピア・サポート活動を実施するにあたり ―		
1	【実施前】 ピア・サポート活動を具体的に進めるための申請書類(支援部署より実施を事前承諾された事業のみ)		
	■ピア・サポート活動の目的や内容をまとめたもの	事業計画書	実施 2 週間前 ＊提出後変更があれば、その都度変更書類を提出する
	■参加予定のピア・サポータ及び一般学生などの名簿	参加者名簿	
	◇経費が発生するピア・サポート活動の場合 ＊交通費は見積額を記入。 ＊講師を招聘する場合は謝金･交通費を記入。	予算書	
	◇参加者から「参加費」を徴収する場合 ＊参加費には交通費･入場料･拝観料･お茶菓子等を含む。	金銭収受を伴う行為の許可願	
2	【実施後】 ピア・サポート活動実施後の報告書類		
	■ピア・サポート活動の実施状況を報告する	事業報告書	実施後 1 カ月以内 ＊領収書は、助成した金額以上の領収書を添付すること。また、本書を提出すること。
		ホームページ用原稿	
	◇経費が発生したピア・サポート活動の場合 ＊「予算書」を提出した場合には、必ず提出すること。	決算書	
	◇支払った費用の領収書をまとめる ＊領収書の宛名は各ピア・コミュニティ名とすること。	領収書添付用紙	
	― ピア・コミュニティを運営するにあたり ―		
3	次年度の年間行事計画とその予算を立てる	年間計画表	当該年度の 1 月 31 日まで
4	ピア・サポータの入退会、規約などの変更が生じた場合	ピア・コミュニティ届出事項変更届	その都度
5	研修生の登録、登録情報に変更が生じた場合	研修生登録申請書	その都度

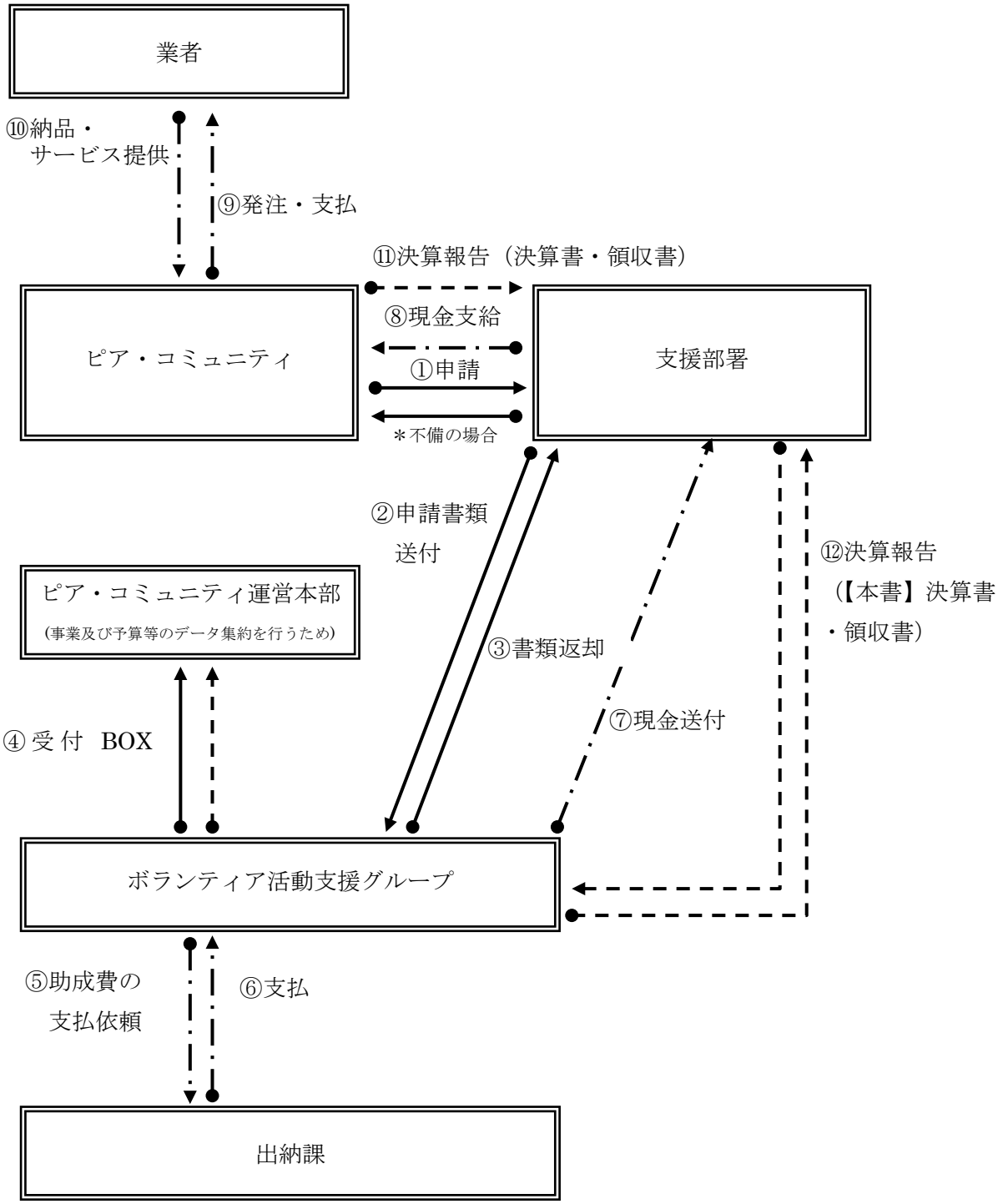
《注意事項》

☑ 上記のフローは、毎年見直しを行います。

☑ 2 つ以上のピア・コミュニティで合同事業を行う場合には、申請手続きや経費負担割合等については、事前にご相談ください。

☑ 関西大学セミナーハウスを利用する場合や交通費の団体割引を利用する場合には、支援部署の教職員が帯同することが必要となりますので、学生センターまで事前にご相談ください。

●【経費が発生する場合の会計フロー】⇒⑤～⑩のとおり、必要備品が納品される。



ピア・サポート活動に伴って経費が発生する場合は、活動助成としてボランティア活動支援グループからピア・コミュニティに対して、助成費の支出（原則 1000 円単位）を行います。

《注意事項》

☑ 上記のフローは、毎年見直しを行います。

《金銭に伴う取り決め》

☑ ピア・コミュニティ内における会費（部費）を徴収する場合は、独自に会則を設け管理してください。

☑ 参加者から徴収した「参加費」に余剰金が生じた場合は、原則、即日清算を行い返金してください。
また、徴収した「参加費」の管理は、支援部署と調整の上、厳重に管理してください。

以　上

関西大学ピア・コミュニティ 2019 年度報告書

発　行 ： 2020 年 9 月
発行者 ： 関西大学
編集者 ： 関西大学学生センター　ボランティア活動支援グループ
住　所 ： 〒564-8680　大阪府吹田市山手町 3-3-35
電　話 ： 06-6368-1229
ＵＲＬ ： http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp
印　刷 ： 大都印刷株式会社